耶馬渓ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

日時：令和７年５月２６日（月）１３時３０分　～
場所：山国川河川事務所　ダム管理課　会議室

次　第

1.　開会

2.　挨拶及び開催趣旨説明　山国川河川事務所　事務所長

3.　議事

１）耶馬渓ダムの防災操作等について

〇近年の出水、緊急放流の実施状況
〇耶馬渓ダムの操作
〇山国川の特徴
〇耶馬渓ダムからの放流に関する情報について

２）意見交換

〇避難行動について

〇次回開催について

4.　閉会

「耶馬渓ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会」規約

（名称）

第１条　本会は、「耶馬渓ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会（以下「意見交換会」という。)」と称する。

（目的）

第２条　本意見交換会は、耶馬渓ダムの機能や能力及び大雨時のダムの操作について、ダム下流沿川の皆様に理解してもらい、防災情報の提供方法や地域の防災行動について考え、地域防災力の向上を図ることを目的とする。

（構成）

第３条　意見交換会は、別表に掲げる者（以下「メンバー」という。）によって構成する。

２　メンバーは、必要に応じて、交替や増員ができるものとする。

（意見交換会）

第４条　本意見交換会には、会長と事務局を置く。

２　事務局は、意見交換会を運営し、会務を行う。

３　意見交換会は、会長が必要と認めた時に招集する。

（会長）

第５条　会長は、意見交換会を代表し、会務を総括する。

２　会長は、意見交換会に諮って定める。

（事務局）

第５条　本意見交換会の事務を行うため、事務局を国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所ダム管理課に置く。

（雑則）

第６条　この規約に定めるもののほか、意見交換会の運営に必要な事項は、事務局が意見交換会に諮って定める。

（付則）

この規約は、令和７年５月２６日から施行する。

別表

「耶馬渓ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会」
名簿

役　　職	備　　考
大分大学　減災・復興デザイン教育研究センター長	
本耶馬渓町下曽木地区自治委員	
本耶馬渓町上曽木・青・中島地区自治委員	
本耶馬渓町多志田・冠石野地区自治委員	
耶馬渓町平田 町丈地区自治委員	
耶馬渓町平田 上宮ノ馬場地区自治委員	
耶馬渓町平田 下宮ノ馬場地区自治委員	
中津市防災危機管理課長	
中津市本耶馬渓支所長	
中津市耶馬渓支所長	
NHK大分放送局　アナウンサー	
山国川河川事務所長	

（オブザーバー）

役　　職	備　　考
大分県中津土木事務所　次長	

（事務局）

国土交通省　九州地方整備局　山国川河川事務所

資料－2

耶馬渓ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

「耶馬渓ダムの防災操作等説明資料」

令和7年5月26日

国土交通省九州地方整備局
山国川河川事務所

国土交通省

開催趣旨

〇近年、気候変動等による異常洪水が全国各地で発生

〇九州でも計画規模を超える洪水により、甚大な被害が発生

〇九州の管理ダムにおいても、異常洪水時防災操作（以下「緊急放流」という）を実施している状況

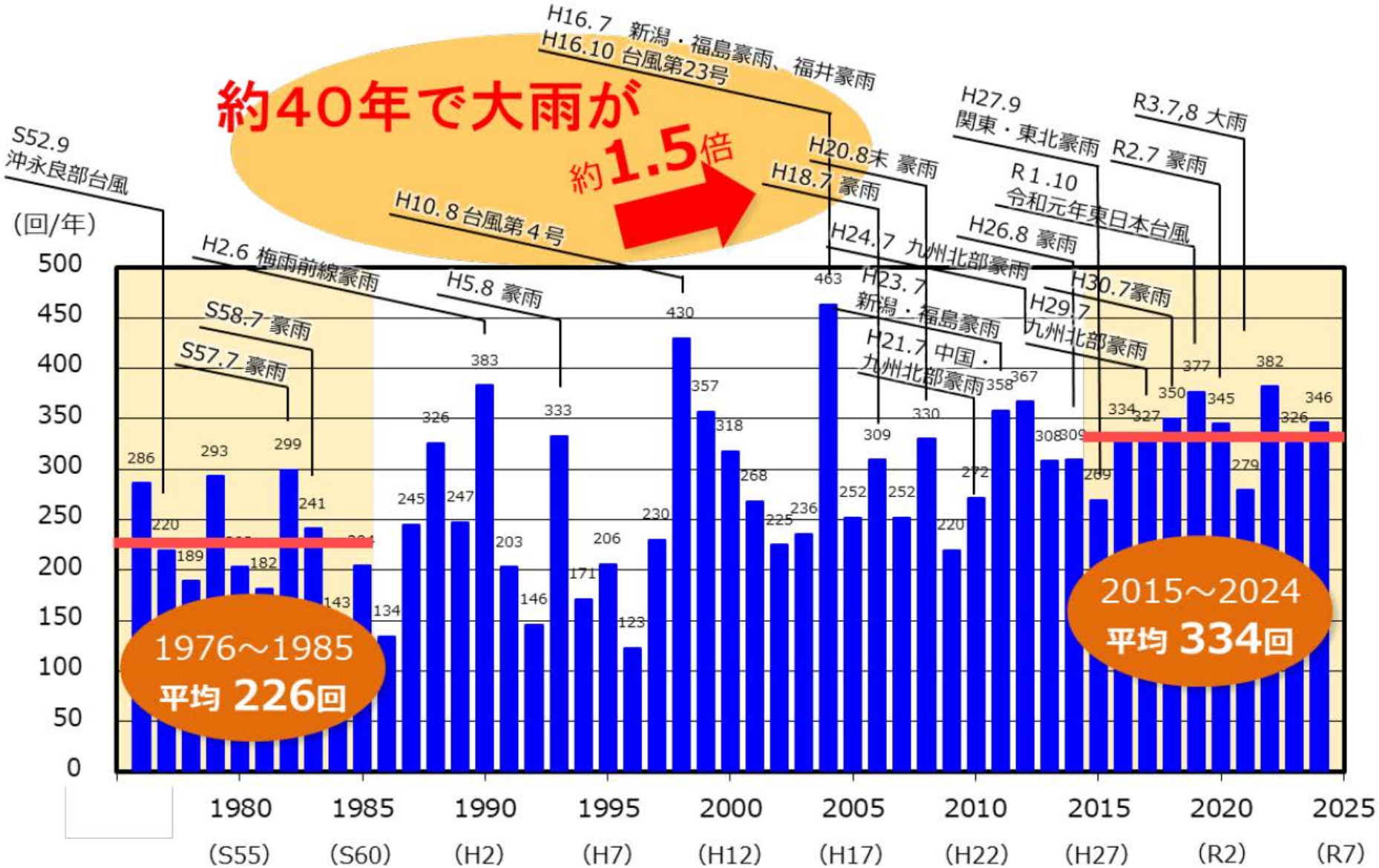
〇緊急放流実施という状況になった場合、ダム下流の河川水位が急激に上昇し、緊急的な避難が必要となる場合がある

耶馬渓ダムにおいても、緊急放流に備えるため、避難行動につながる情報の提供を行うことを目的にみなさまと一緒に考え、情報を共有し、命を守る行動につなげていただけるよう、意見交換の場を設けるものです。

近年の出水、緊急放流の実施状況

雨の降り方の変化

時間雨量50mmを上回る大雨の発生件数



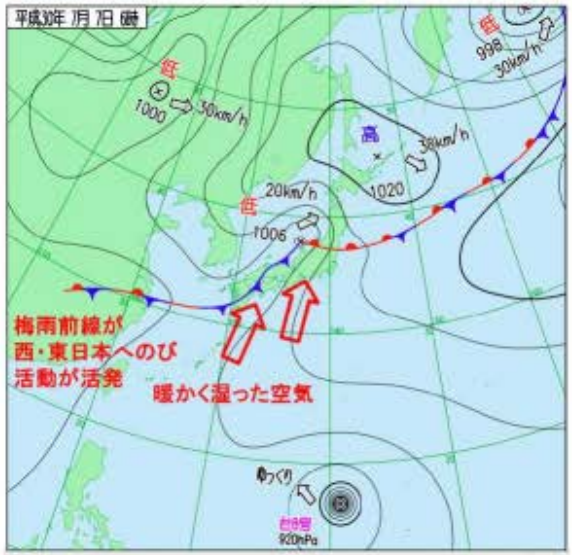
平成30年7月豪雨の概要

○ 6月29日に日本の南で発生した台風第7号は東シナ海を北上し、対馬近海で進路を北東に変えた後、7月4日に日本海で熱帯低気圧に変わった。その後、8日にかけて西日本に梅雨前線が停滞し、非常に暖かく湿った空気が供給され続け、大雨となりやすい状態が続いた。

○ このため、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、6月28日～7月8日までの総降水量が四国で1,800mm、東海で1,200mmを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の4倍となる大雨となったところがあった。

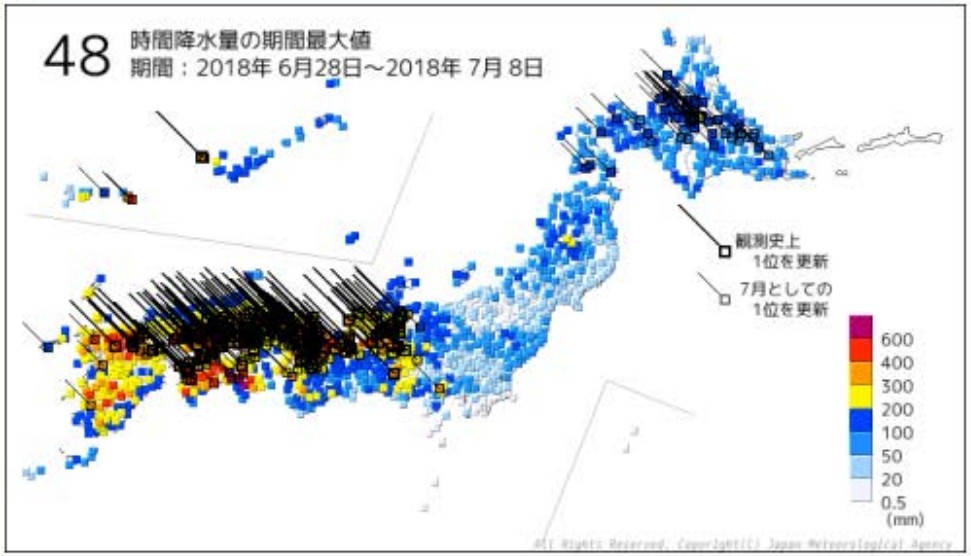
○ 特に長時間の降水量が記録的な大雨となり、アメダス観測所等（約1,300地点）では24時間降水量は77地点、48時間降水量は125地点、72時間降水量は123地点で観測史上1位を更新した。

停滞した梅雨前線に暖かく湿った空気が供給



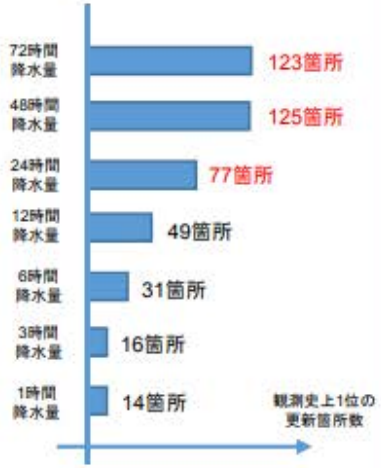
実況天気図（2018年7月7日6時00分時点）

広い範囲で記録的な大雨



48時間降水量の期間最大値（期間2018年6月28日～7月8日）

長期間の大雨



観測史上1位の更新地点数
（時間降水量別）

※気象庁ウェブサイトを基に作成

平成30年7月豪雨の概要

○ 平成30年7月豪雨により、西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に、河川の氾濫、内水氾濫、土石流等が発生。

○ これにより、死者224名、行方不明者8名、住家の全半壊等21,460棟、住家浸水30,439棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。※1

○ 避難指示（緊急）は最大で915,849世帯・2,007,849名に発令され、その際の避難勧告の発令は985,555世帯・2,304,296名に上った。※2

※ 広島県については、避難指示（緊急）（1,553 地区）、避難勧告（128 地区）及び避難準備・高齢者等避難開始（2地区）を合算して 818,222 世帯、1,837,005 名に発令

○ 断水が最大263,593戸発生するなど、ライフラインにも甚大な被害が発生。※3

※1：消防庁「平成30年7月豪雨及び台風第12号による被害状況及び消防機関等の対応状況（第58報）」（平成30年11月6日）
※2：内閣府「平成30年台風第7号及び前線等による被害状況等について（平成30年7月8日6時00分現在）」
※3：内閣府「平成30年台風第7号及び前線等による被害状況等について（平成30年10月9日17時00分現在）」

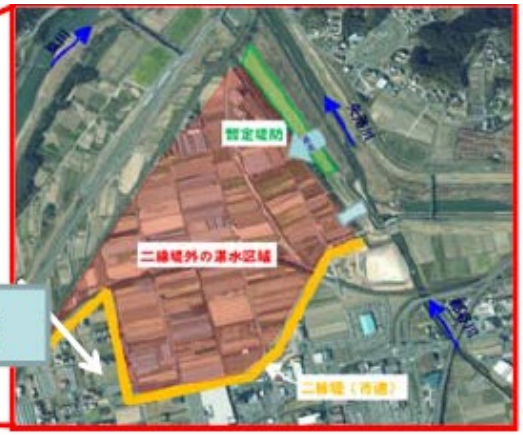
■岡山県倉敷市真備町の浸水及び排水状況

■各地で土砂災害が発生

肱川・野村ダム（愛媛県）の緊急放流の状況

平成30年7月豪雨

平成30年7月　肱川（愛媛県）流域における浸水被害状況



箇所	被害項目	被害数量
大洲市	浸水家屋数	2,873棟 床上：2,087棟 床下：　786棟
	浸水面積	約440ha ※東大洲地区のみ
菅田～肱川地区	浸水家屋数	約180戸 床上：約160戸 床下：約20戸
	浸水面積	約485ha
西予市野村地区	浸水家屋数	約650戸 床上：約570戸 床下：約80戸
	浸水面積	約70ha

豪雨による人的被害では9名（土砂災害も含め、大洲市4名、西予市5名）の方が亡くなられた

※数値は速報値であり今後変更となる場合がある。

平成18年7月洪水における鶴田ダムの緊急放流の状況

平成18年7月　<川内川>出水・被害状況

国土交通省

●一般被害（川内川流域関係市町）

市町村名		床上浸水（戸）	床下浸水（戸）	計
薩摩川内市		91	39	130
さつま町		850	89	939
伊佐市	旧大口市	165	43	208
	旧菱刈町	67	26	93
湧水町		446	123	569
えびの市		229	179	408
計		1,848	499	2,347

凡　例	
	外水範囲
	内水範囲

この記録的豪雨により、2名の方が亡くなられた

平成18年7月　鹿児島県さつま町浸水被害状況

国土交通省

宮之城橋右側上流、家屋倒壊

川内川河川事務所

平成18年7月　鹿児島県さつま町浸水被害状況

国土交通省

川内川河川事務所

さつま町虎居地区での救助状況

令和2年7月豪雨　下筌ダム緊急放流状況

九州地方整備局　防災ヘリ「はるかぜ号」　令和２年７月８日１８時頃撮影

下筌ダム　令和2年7月8日18時貯水位：332.32m <洪水時最高水位(336.00m) -3.68m>

※今回最高貯水位：7/8 00:20 335.51m <洪水時最高水位(336.00m) -0.49m>

令和6年8月洪水（台風第10号）における河川・ダムの対応状況

<被害の状況等>

1. 台風第10号の接近・上陸に伴い、台風周辺だけでなく、台風から離れた地域でも大雨を観測。
2. 国が管理する櫛田川（くしだがわ）水系佐奈川（さながわ）で氾濫による農地浸水を確認（浸水解消済み）。
3. 11都県（岩手、埼玉、東京、神奈川、岐阜、静岡、愛知、三重、大分、宮崎、鹿児島）の28水系39河川で氾濫による浸水被害を確認（浸水解消済み）。
   このほか、岐阜県管理の木曽川（きそがわ）水系小畑川（おばたがわ）（養老町）、三重県管理の三渡川（みわたりがわ）水系堀坂川（ほっさかがわ）（松阪市）で堤防欠損を確認。応急対策実施中（1箇所完了）
4. 141ダム(多目的ダム70、利水ダム71)で事前放流を実施。(299ダムで事前放流の基準に達したが、158ダムは既に水位が低下していた)
5. 98ダムで洪水調節を実施。[うち０ダムで継続中]

8/29宮崎県管理の１ダム（下流河川に被害無し）と大分県管理の1ダム（河川被害を調査中）が緊急放流に移行し、いずれも終了。

8/31中部地方整備局管理の蓮（はちす）ダム(櫛田川(くしだがわ)水系蓮川(はちすがわ))が特別防災操作（通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する操作）を実施。

宮崎県における河川の状況

【浸水被害】 浸水解消

県管理河川（４水系６河川）

大分県における河川の状況

【浸水被害】 浸水解消

県管理河川（７水系８河川）

岐阜県における河川の状況

【浸水被害】 浸水解消　【堤防欠損】 応急対策実施中

県管理河川（１水系６河川）

県管理河川（１水系１河川）

鹿児島県における河川の状況

【浸水被害】 浸水解消

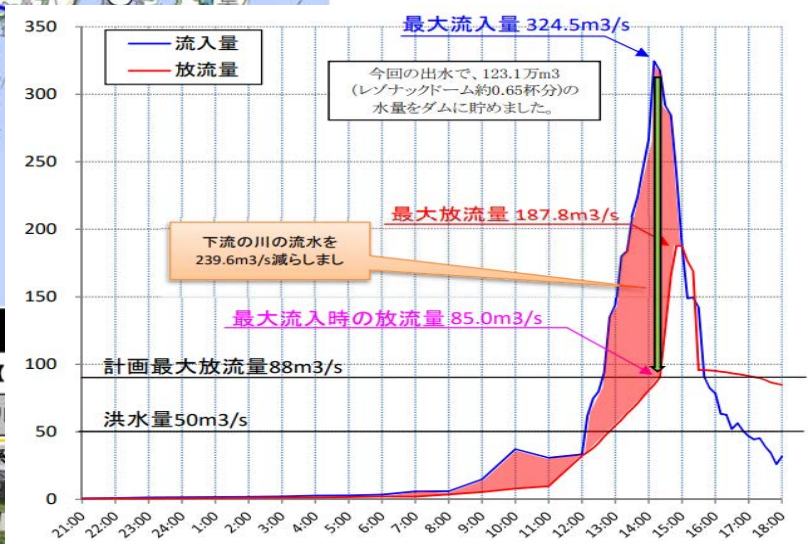
県管理河川（１水系１河川）

三重県における河川の状況

【浸水被害】 浸水解消

国管理河川（１水系１河川）

県管理河川（３水系３河川）



令和6年8月洪水（台風第10号）における安岐ダム
（大分県管理）の洪水調節実績

耶馬渓ダムの操作

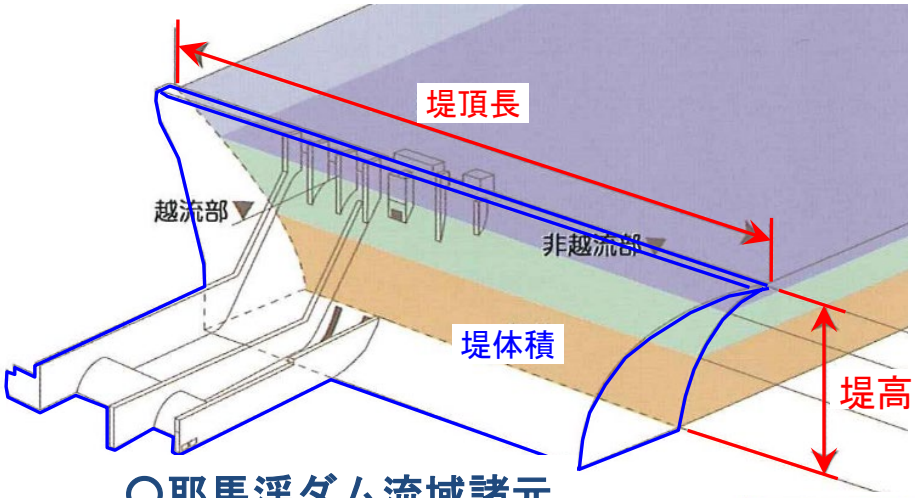
防災操作（洪水調節）と異常時洪水時防災操作（緊急放流）

耶馬渓ダムの概要

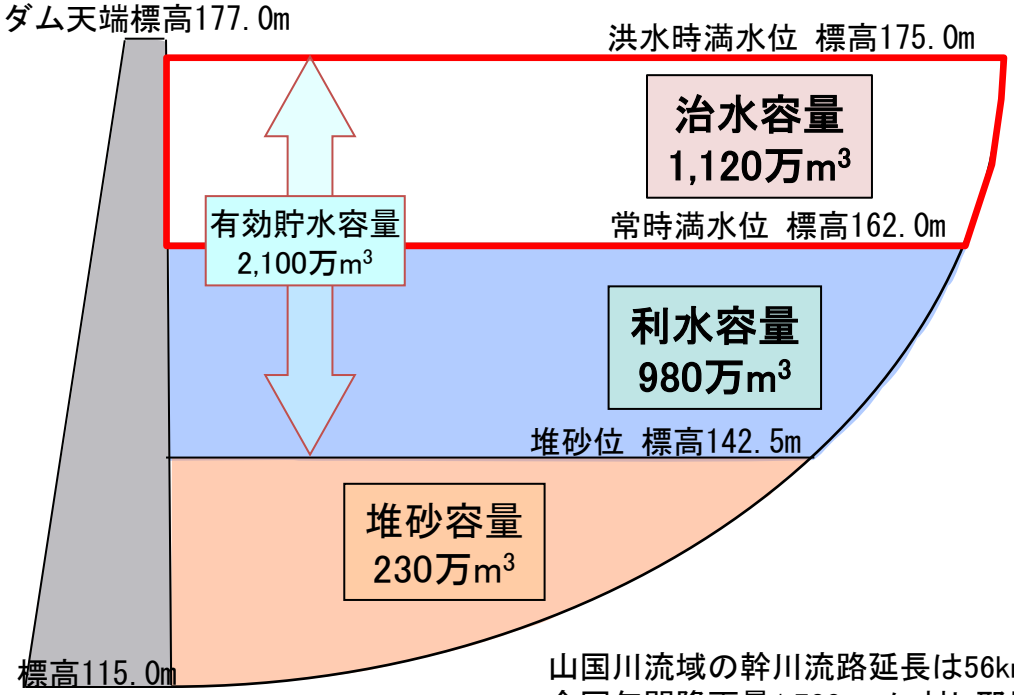
国土交通省

○耶馬渓ダムの諸元

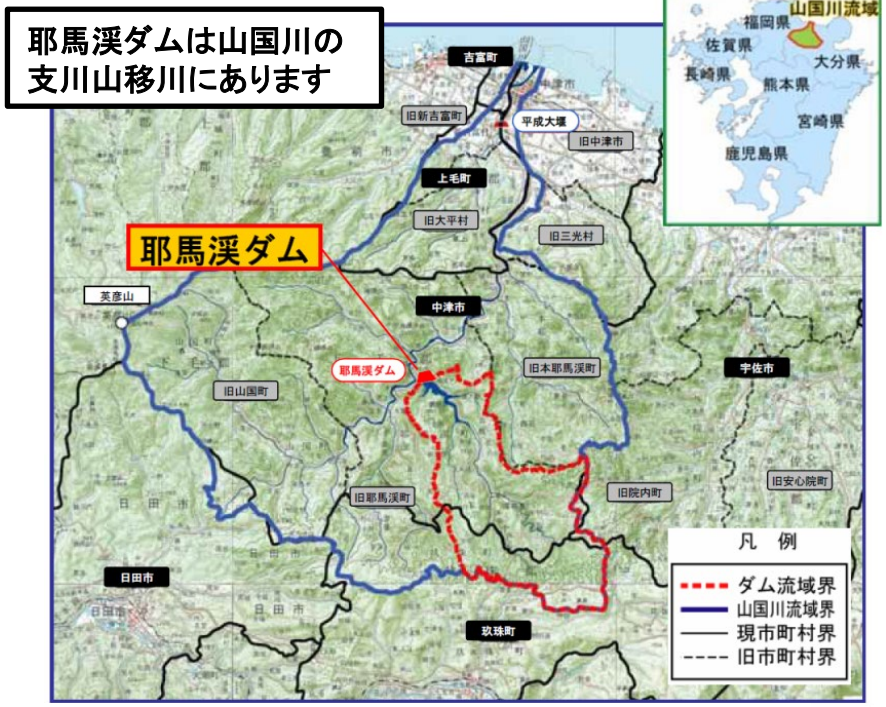
型式：重力式コンクリートダム
堤高：62.0m
堤頂長：313.0m
堤体積：395,000m3



○貯水池容量配分図



○耶馬渓ダム流域諸元



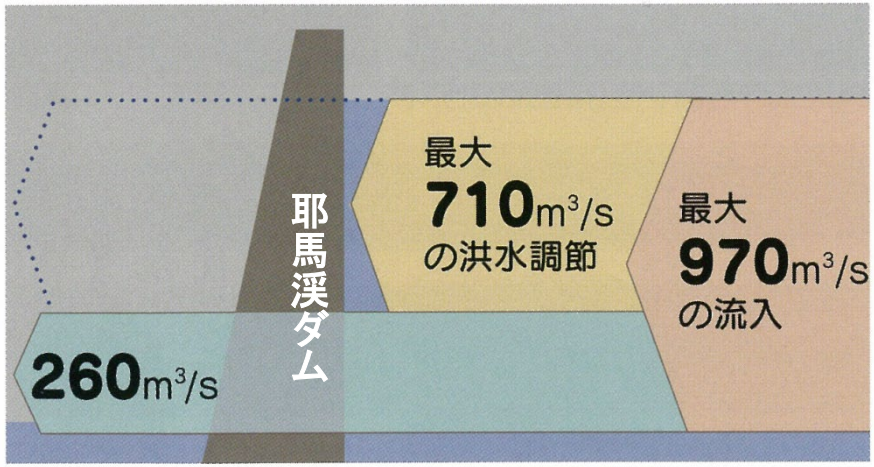
山国川流域の幹川流路延長は56km、山国川流域面積：540km2、耶馬渓ダム流域面積： 89km2
全国年間降雨量1,700mmに対し耶馬渓ダム付近の近10ヶ年平均で1,970mm（約1.2倍）

耶馬渓ダムが担う役割

国土交通省

○治水の役割

耶馬渓ダムでは、毎秒260m3以上の水を貯水池の治水容量に貯め込んで、ダム下流河川の流量を減らす役割を果たしています。

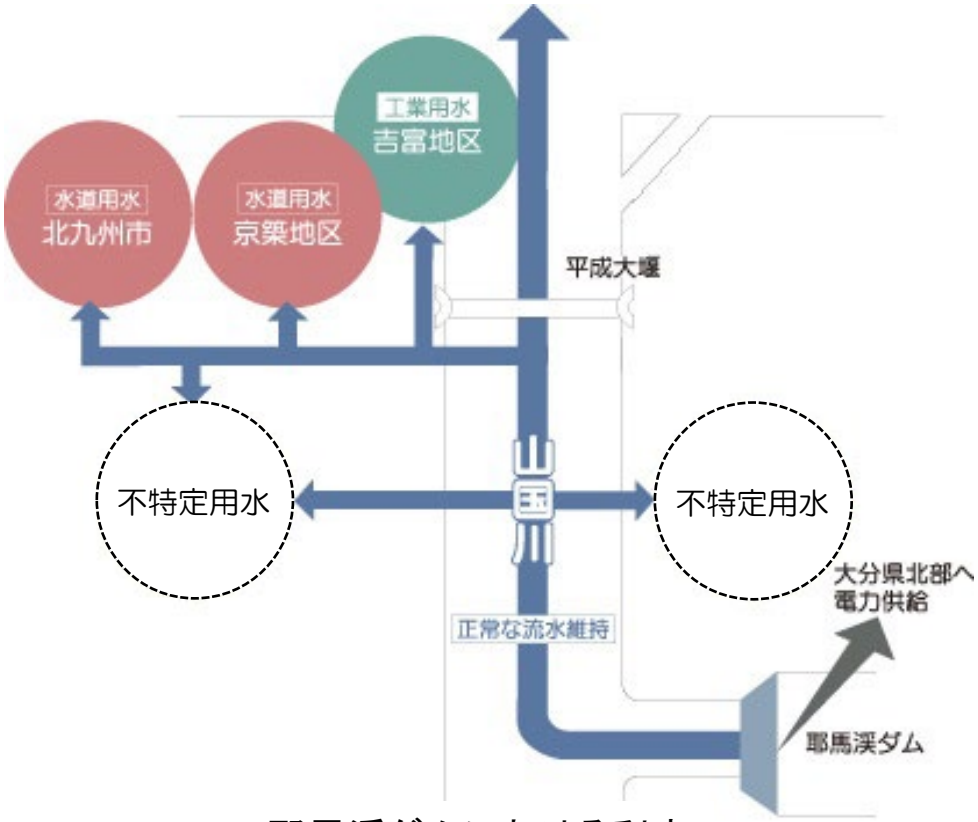


耶馬渓ダムの洪水調節模式図（計画）

※○○m3/s＝毎秒○○m3（立方メートル）

○利水の役割

山国川流域及び周辺地域で水道・工業・不特定用水及び発電のために使用する水を利水容量に溜めて、必要に応じて放流、補給を行っています。



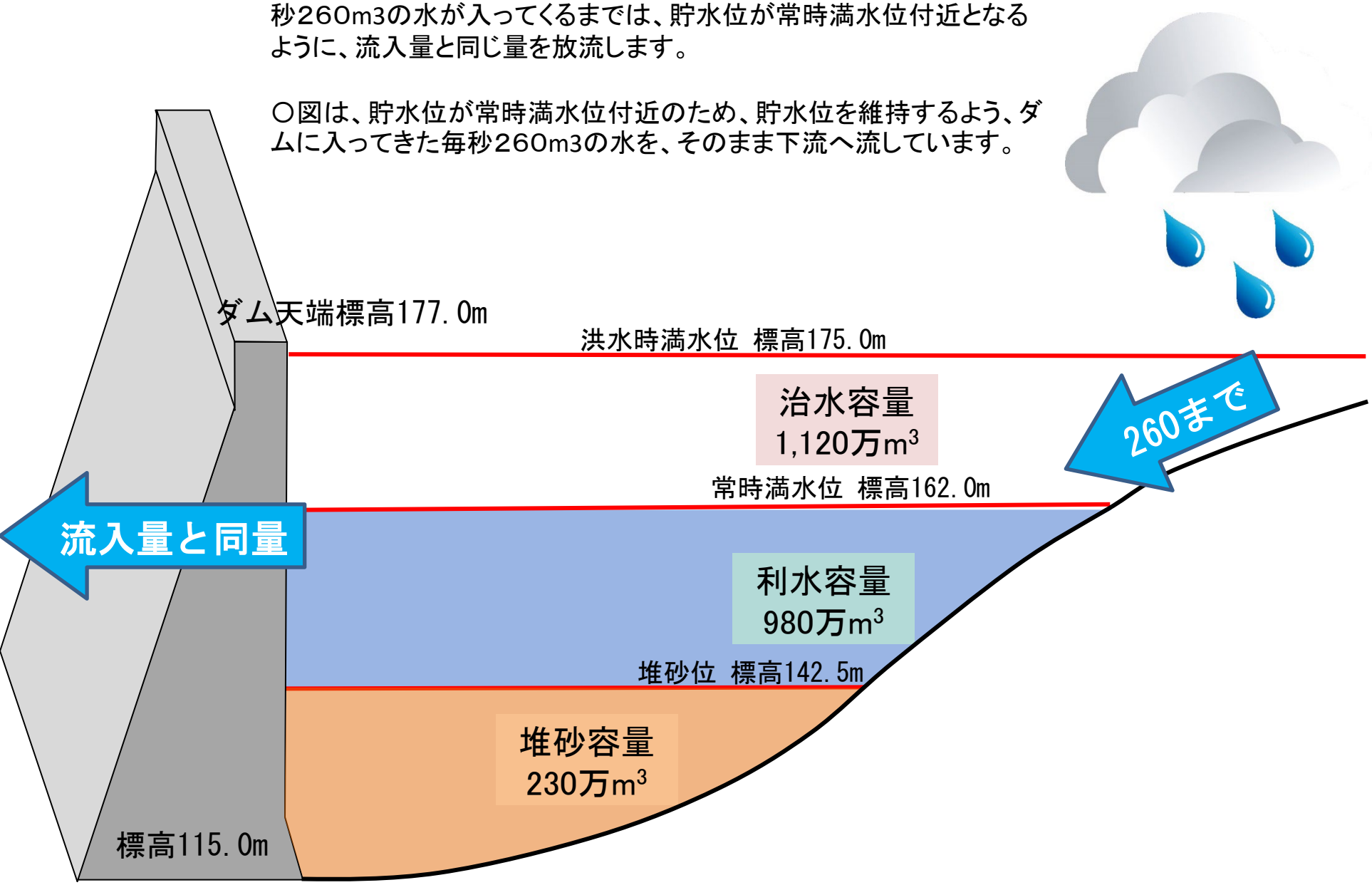
耶馬渓ダムにおける利水

雨の時のダム操作　その1（毎秒260m3まで）

国土交通省

○雨が降った時ダムに入ってくる水量は増えますが、耶馬渓ダムは毎秒260m3の水が入ってくるまでは、貯水位が常時満水位付近となるように、流入量と同じ量を放流します。

○図は、貯水位が常時満水位付近のため、貯水位を維持するよう、ダムに入ってきた毎秒260m3の水を、そのまま下流へ流しています。

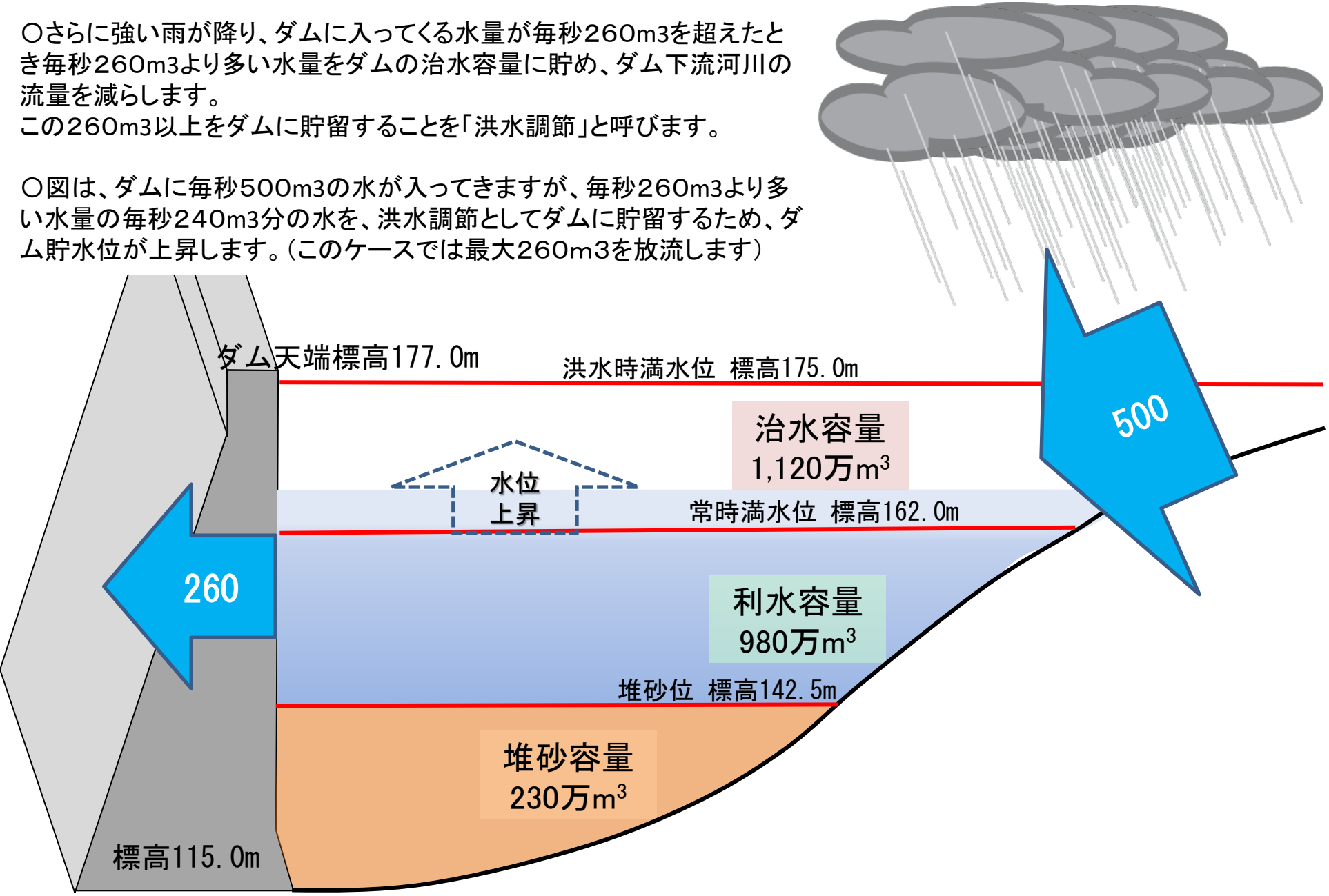


雨の時のダム操作　その2（洪水調節）

国土交通省

〇さらに強い雨が降り、ダムに入ってくる水量が毎秒260m3を超えたとき毎秒260m3より多い水量をダムの治水容量に貯め、ダム下流河川の流量を減らします。
この260m3以上をダムに貯留することを「洪水調節」と呼びます。

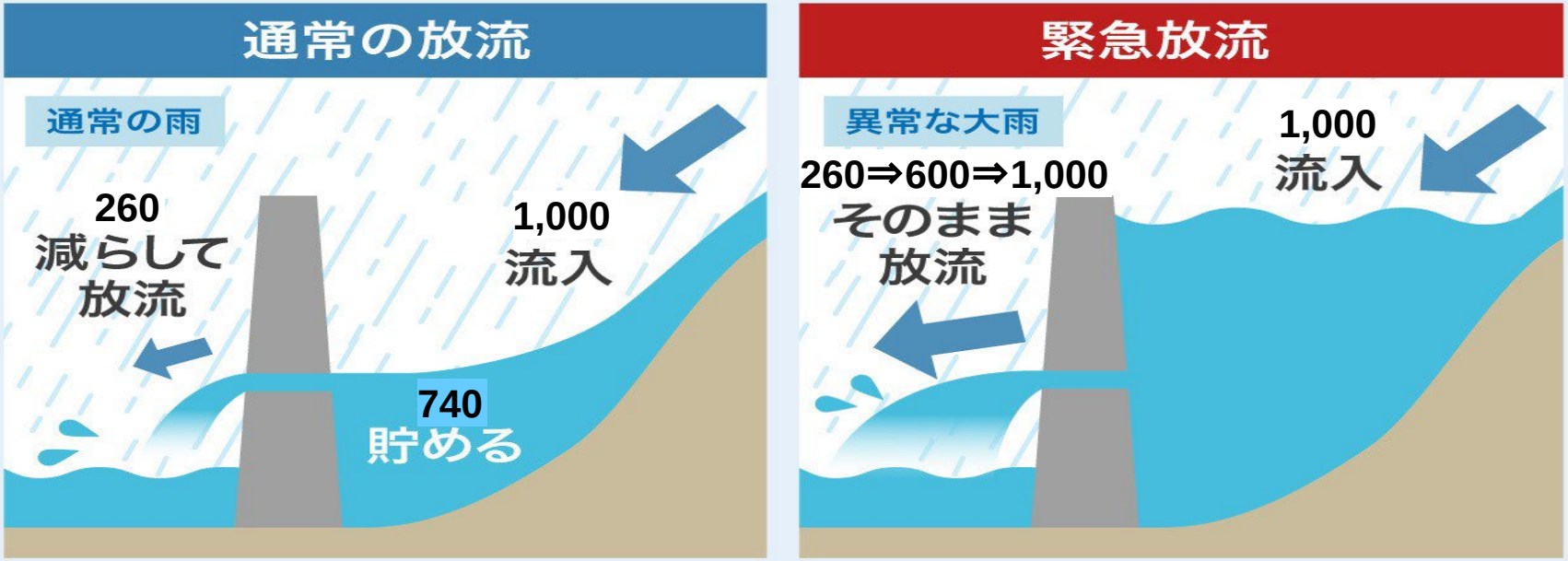
〇図は、ダムに毎秒500m3の水が入ってきますが、毎秒260m3より多い水量の毎秒240m3分の水を、洪水調節としてダムに貯留するため、ダム貯水位が上昇します。（このケースでは最大260m3を放流します）



雨の時のダム操作　その3（緊急放流）

国土交通省

緊急放流（異常洪水時防災操作）とは



大雨でダムが満水に近づいた時…

下流の河川の急激な水位上昇を防ぐため、放流量を徐々に増加させ、ダムに流入した水をそのまま下流に流す

「ダムに貯めこんだ水を一気に放流する」のではない

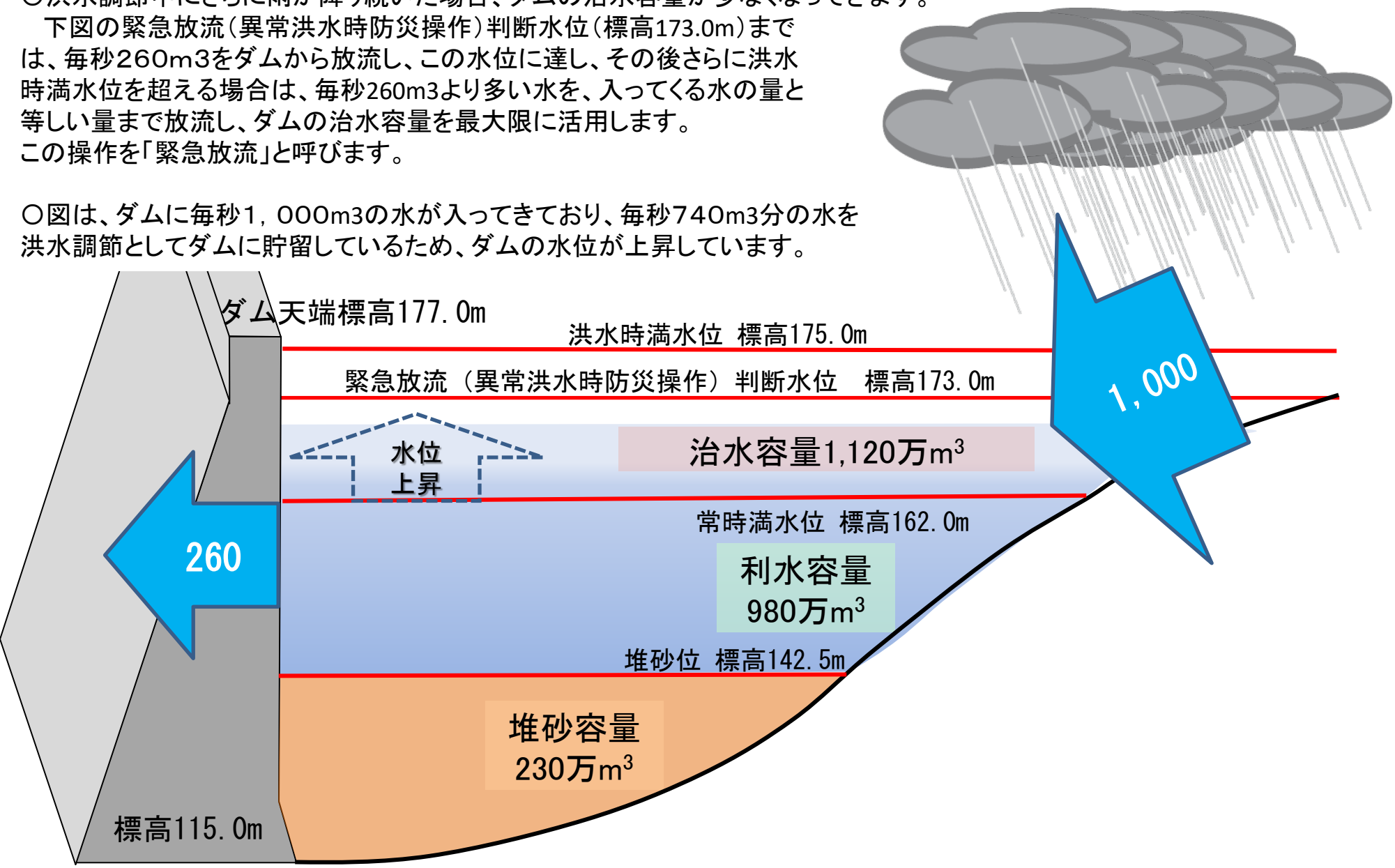
Yahoo! ニュース オリジナル
監修：国土交通省

雨の時のダム操作　その3（緊急放流）

国土交通省

○洪水調節中にさらに雨が降り続いた場合、ダムの治水容量が少なくなってきます。
　下図の緊急放流（異常洪水時防災操作）判断水位（標高173.0m）までは、毎秒260m3をダムから放流し、この水位に達し、その後さらに洪水時満水位を超える場合は、毎秒260m3より多い水を、入ってくる水の量と等しい量まで放流し、ダムの治水容量を最大限に活用します。
この操作を「緊急放流」と呼びます。

○図は、ダムに毎秒1，000m3の水が入ってきており、毎秒740m3分の水を洪水調節としてダムに貯留しているため、ダムの水位が上昇しています。

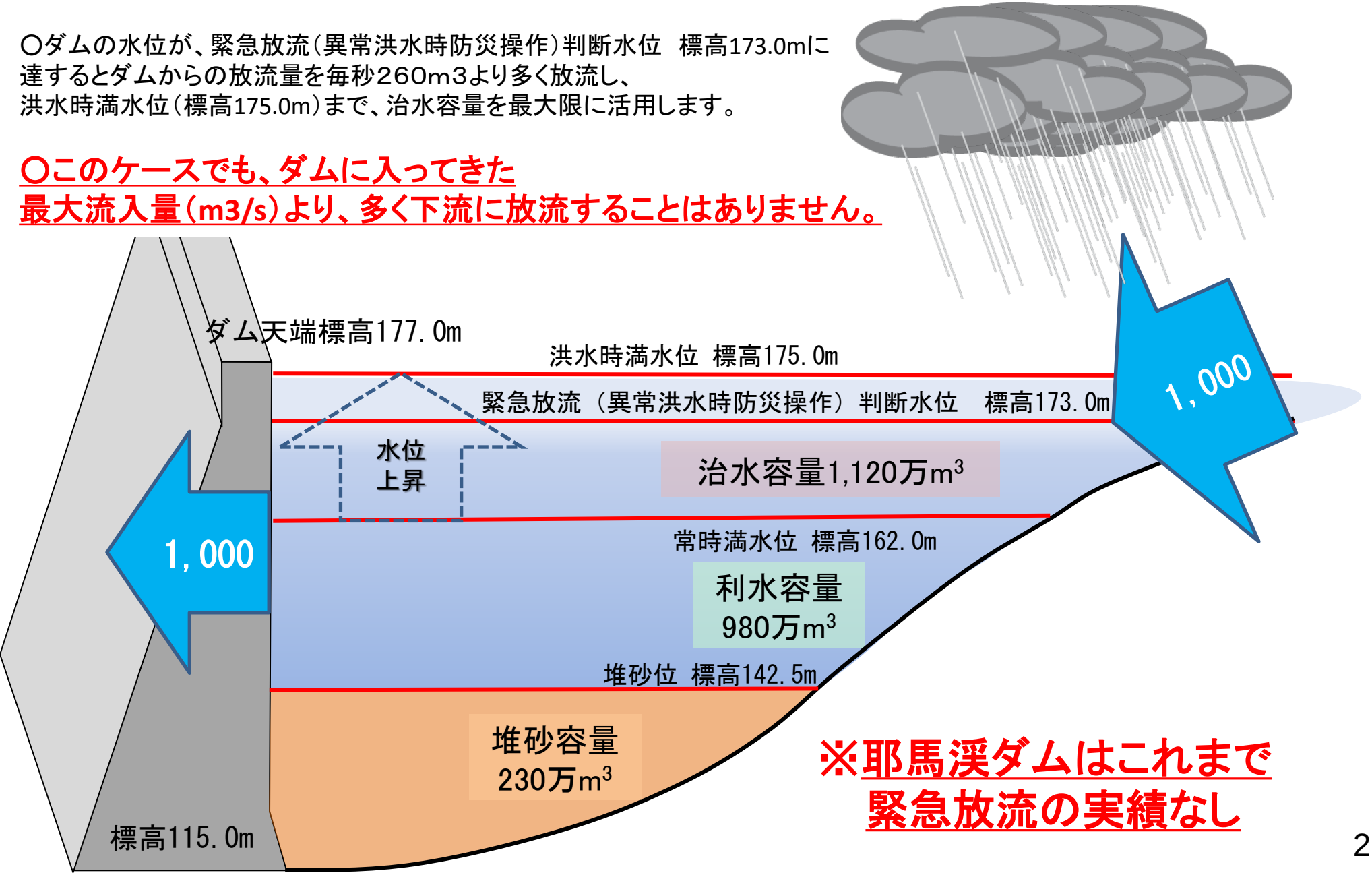


雨の時のダム操作　その3（緊急放流）

国土交通省

〇ダムの水位が、緊急放流（異常洪水時防災操作）判断水位　標高173.0mに達するとダムからの放流量を毎秒260m3より多く放流し、洪水時満水位（標高175.0m）まで、治水容量を最大限に活用します。

〇このケースでも、ダムに入ってきた最大流入量（m3/s）より、多く下流に放流することはありません。



※耶馬渓ダムはこれまで緊急放流の実績なし

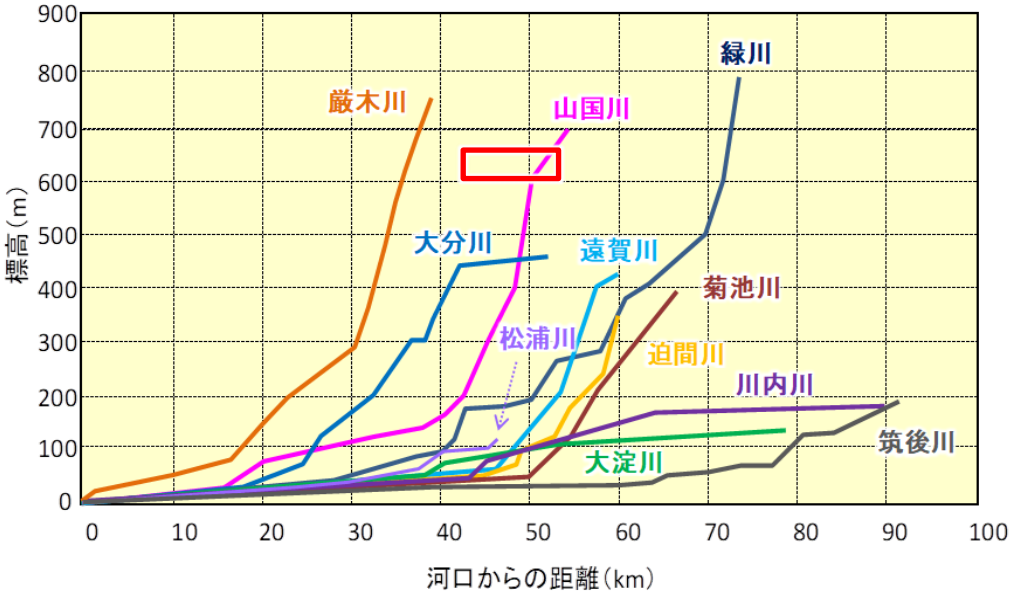
山国川の特徴

山国川の特徴やこれまでの出水、緊急放流実施時の状況

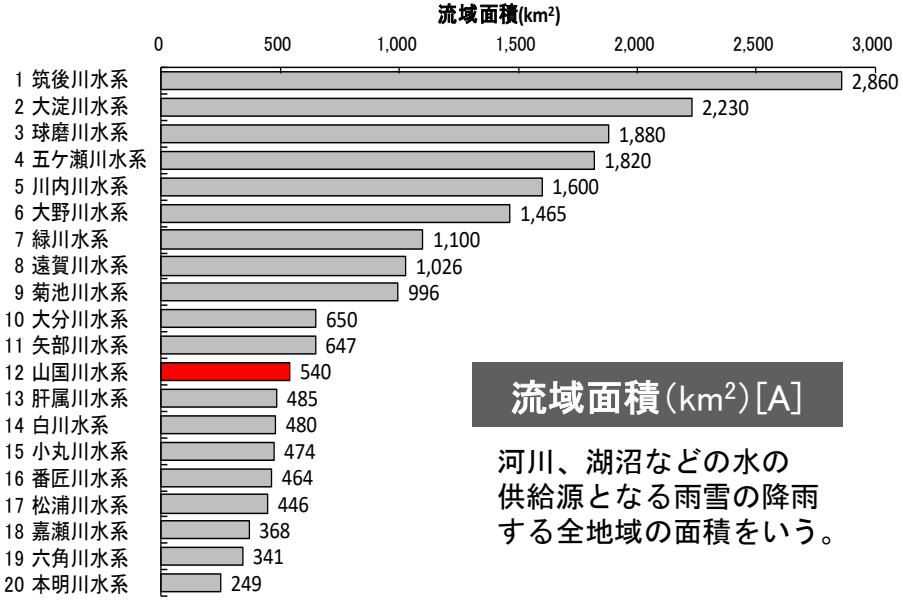
山国川の特徴

国土交通省

- 河床勾配は、上中流部で1/200以上、下流部でも1/500～1/1,000程度と急勾配となっています。
  →<u>降った雨の流出が早い</u>

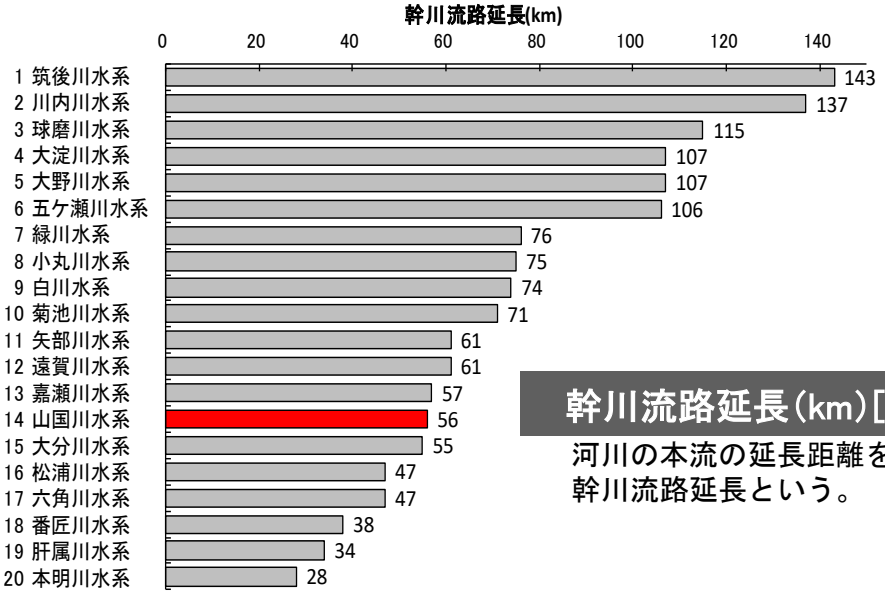


- 山国川の流域面積は、九州内の一級河川（20河川）のなかで12番目の広さです。
- 山国川の幹川流路延長は、九州内の一級河川（20河川）のなかで14番目の長さです。



流域面積（km²）[A]

河川、湖沼などの水の供給源となる雨雪の降雨する全地域の面積をいう。



幹川流路延長（km）[L]

河川の本流の延長距離を幹川流路延長という。

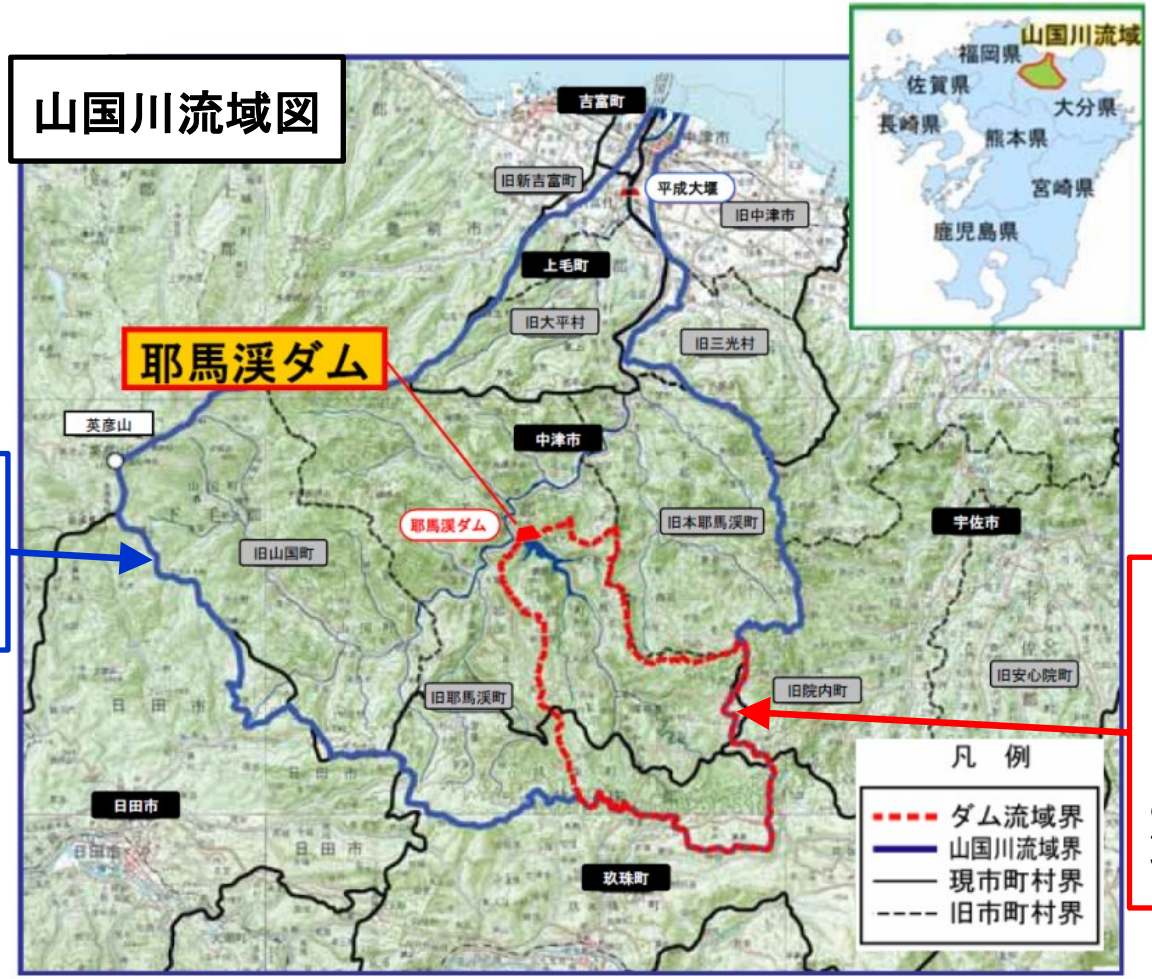
出典：河川データブック2021 令和3年7月水管理・国土保全局

山国川の特徴

国土交通省

○耶馬渓ダム流域諸元

耶馬渓ダムは、山国川の支川山移川の1km付近に位置します。
山国川流域面積は540km2、耶馬渓ダム流域面積は89km2となっており、耶馬渓ダムの集水域が山国川流域の約16%を担っています。



青線で囲んだ地域
山国川流域540km2

赤線で囲んだ地域
耶馬渓ダム流域
89km2

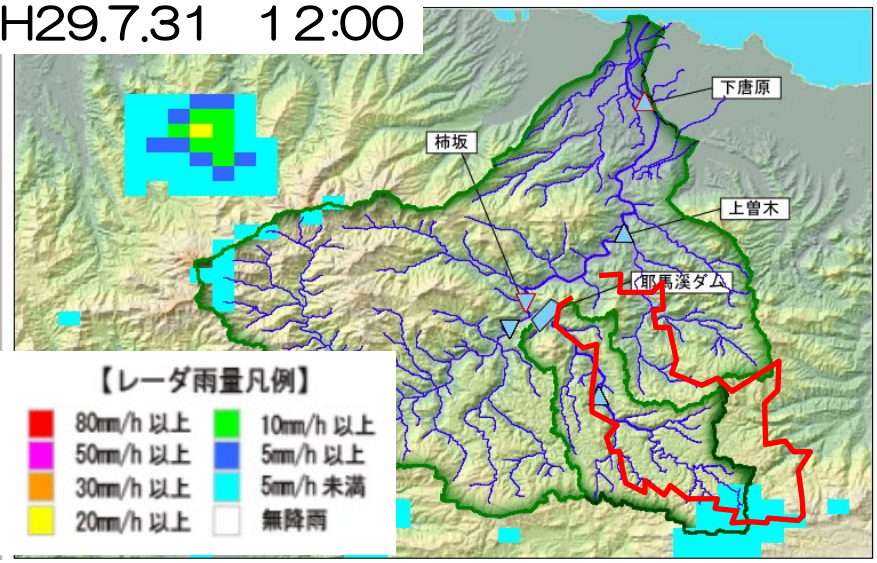
この区域に降った雨が
耶馬渓ダムに流れてきます

山国川の特徴

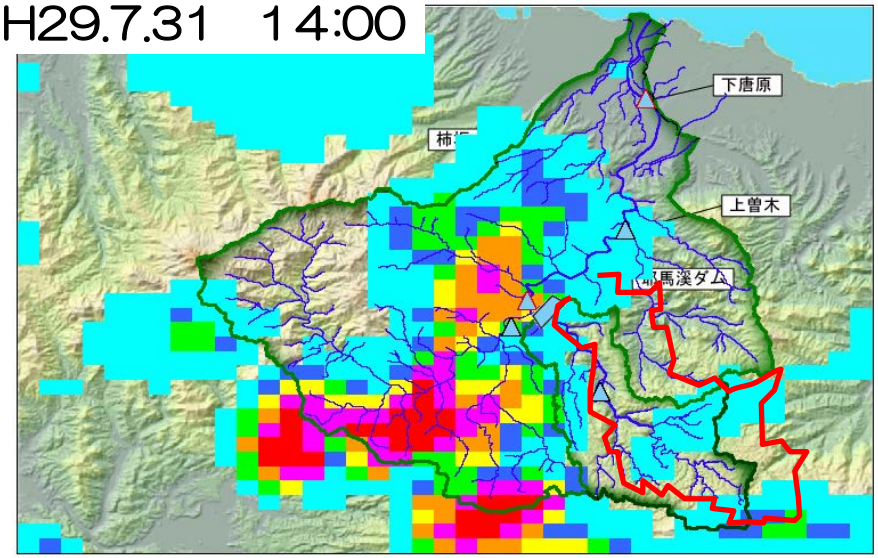
国土交通省

○H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について

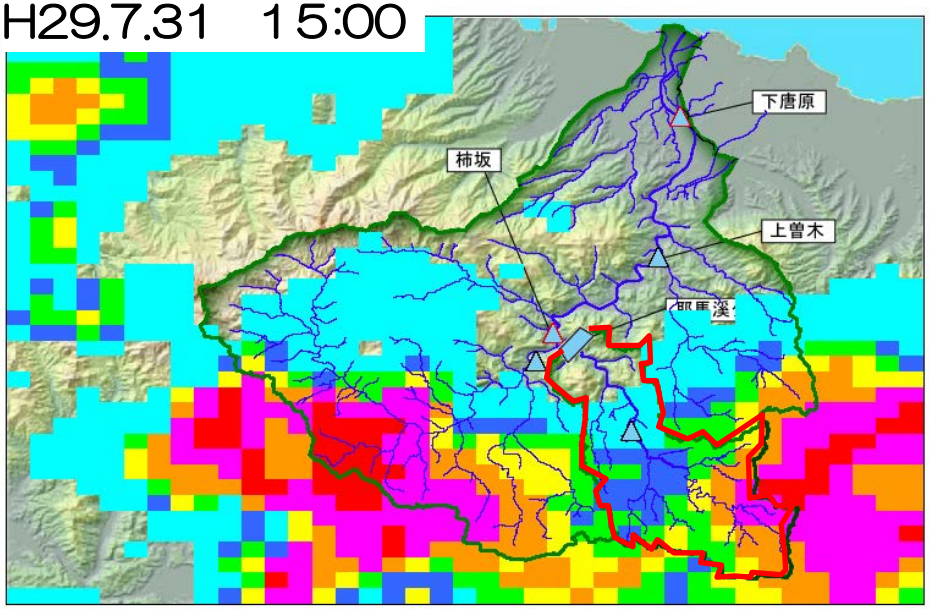
H29.7.31　12:00



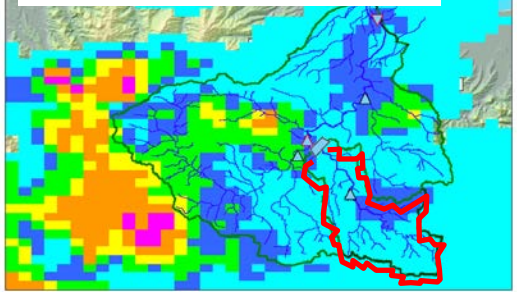
H29.7.31　14:00



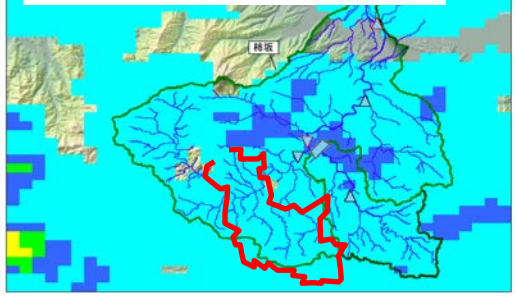
H29.7.31　15:00



H29.7.31　16:00



H29.7.31　17:00



H29.7.31は、山国川上流部から雨が降り出し、遅れてダム上流部にも降り出しているが、下流部にはほとんど降っていませんでした。
この降雨状況のように、<u>山国川本川で雨が降れば、ダム流域や下流部では雨が降っていなくても河川水位が上昇する場合があります。</u>

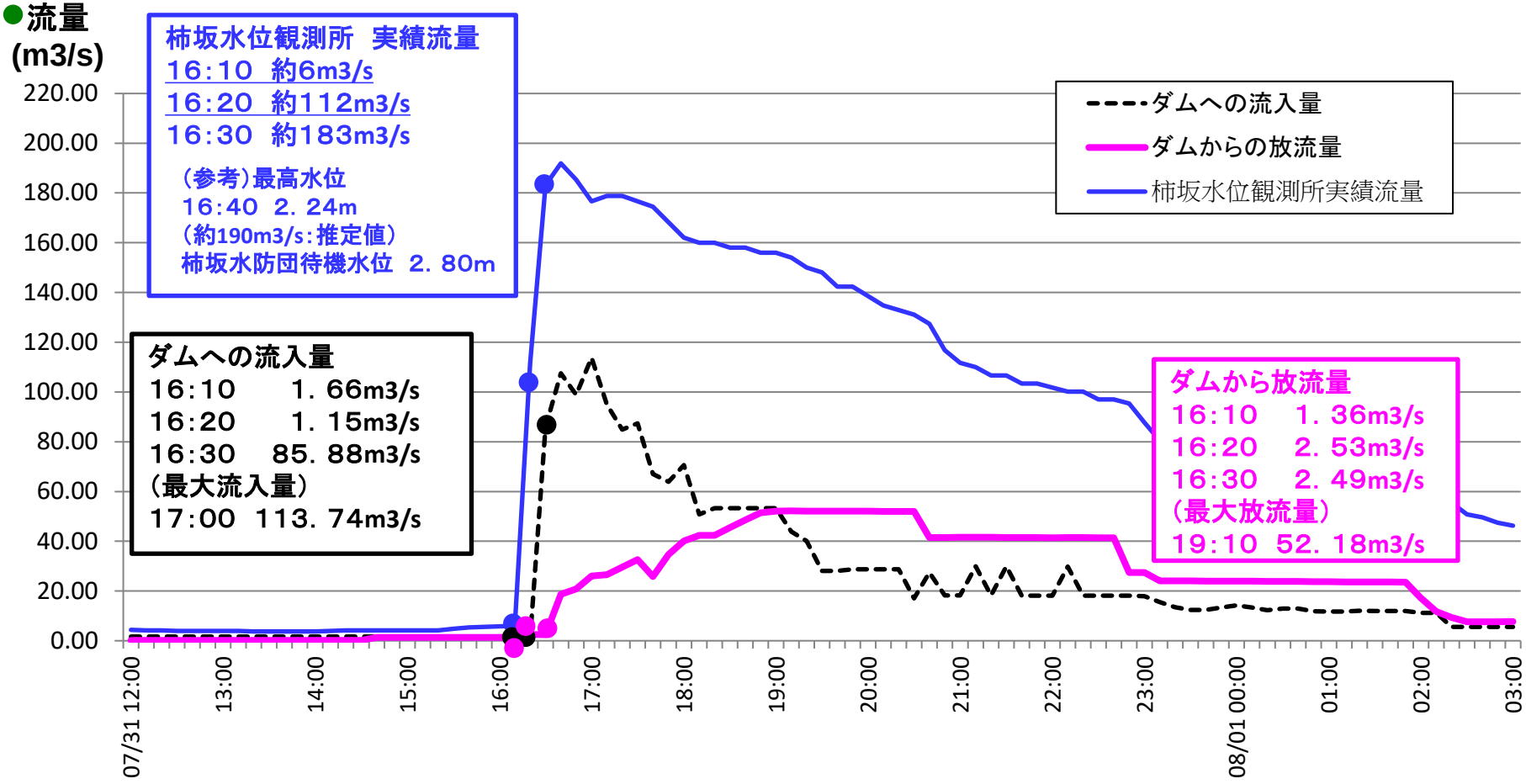
山国川の特徴

国土交通省

○H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について

柿坂水位観測所（耶馬溪町）で16:10から16:20の10分間に流量が約106m3/s増加しました。
（柿坂観測所の水位は16:10から16:20の10分間で０．８０ｍから１．８３ｍに上昇）

ダム最大流入量は17:00　約114m3/s、最大放流量は19:10　約52m3/s



耶馬渓ダムの操作実績

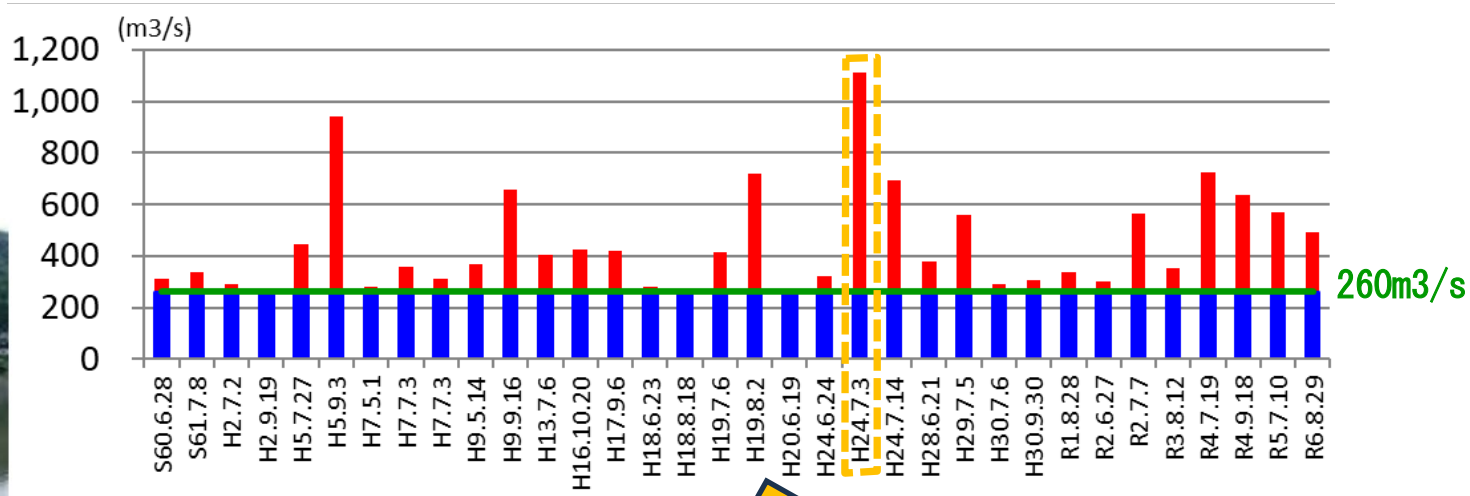
国土交通省

○洪水調節回数：３９回

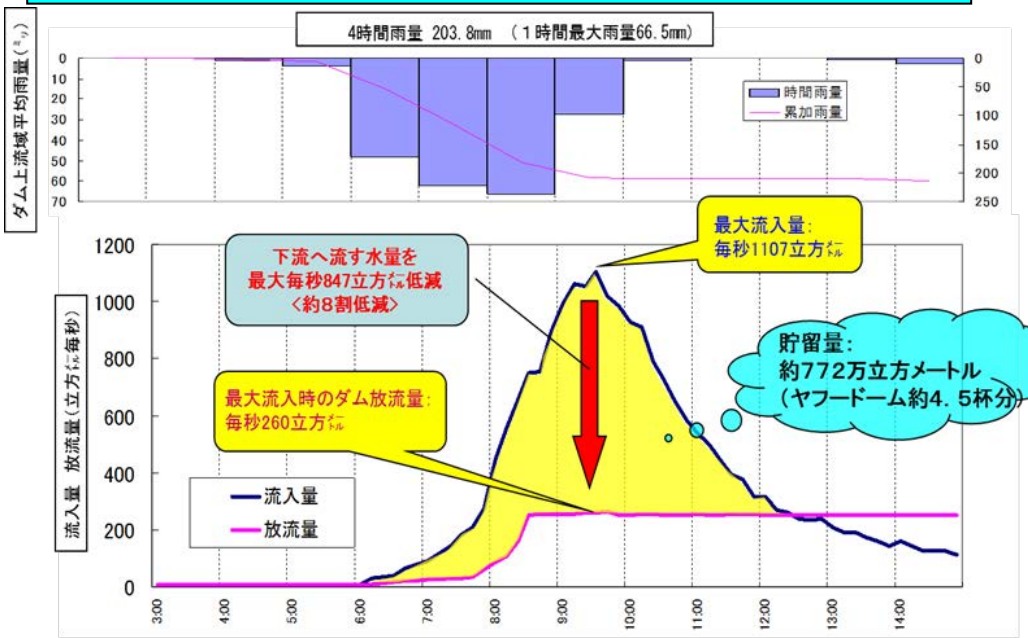
管理開始(S60) 以降の洪水調節実績

※緊急放流の実績なし

平成24年7月3日　最高水位170.81m

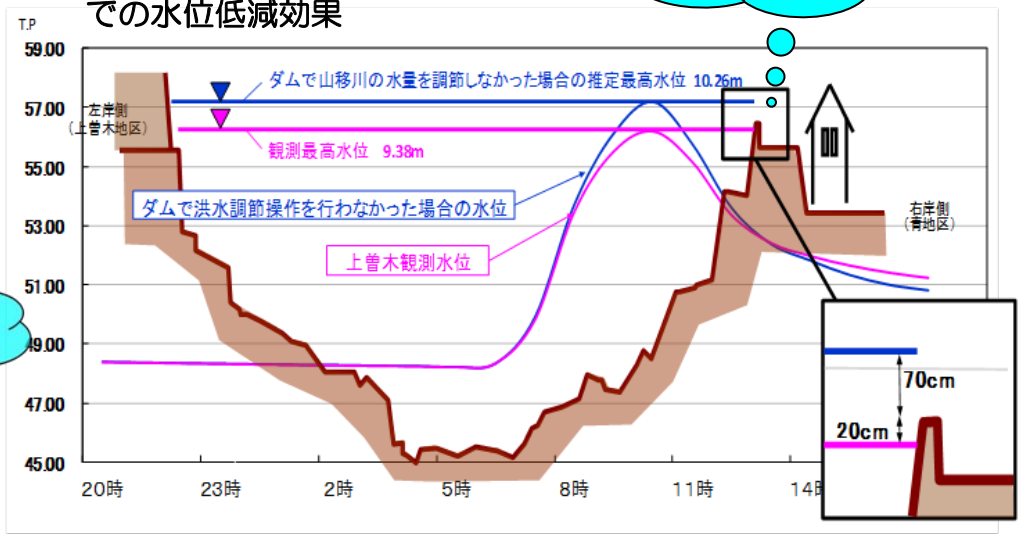


平成２４年７月３日　～ 既往最大流入量を記録 ～



山国川16k500付近
（青地区：上曽木地点）
での水位低減効果

約0.9mの水位低減
を図り、堤防からの越水被害を軽減しました。



九州北部豪雨の被害（平成24年7月3日出水、7月14日出水）

国土交通省

7月3日、7月14日ともに、山国川中流部で大規模な浸水被害が発生!

			7/3洪水	7/14洪水
浸水区域面積		ha	58.1	50.1
家屋被害	床上浸水	戸	132	125
	床下浸水	戸	62	63
	計	戸	194	188

※浸水範囲は国土交通省による調査結果

関係市町村の首長へ直接情報を伝達するホットラインを実施

ホットラインは、洪水時に国土交通省の河川事務所長から流域の各市町村長に河川水位等の情報を直接伝達する仕組みです。
7月3日および7月13日～14日にかけて中津市、上毛町、吉富町の首長に対し、山国川河川事務所長から複数回のホットライン発信を行いました。

山国川河川事務所

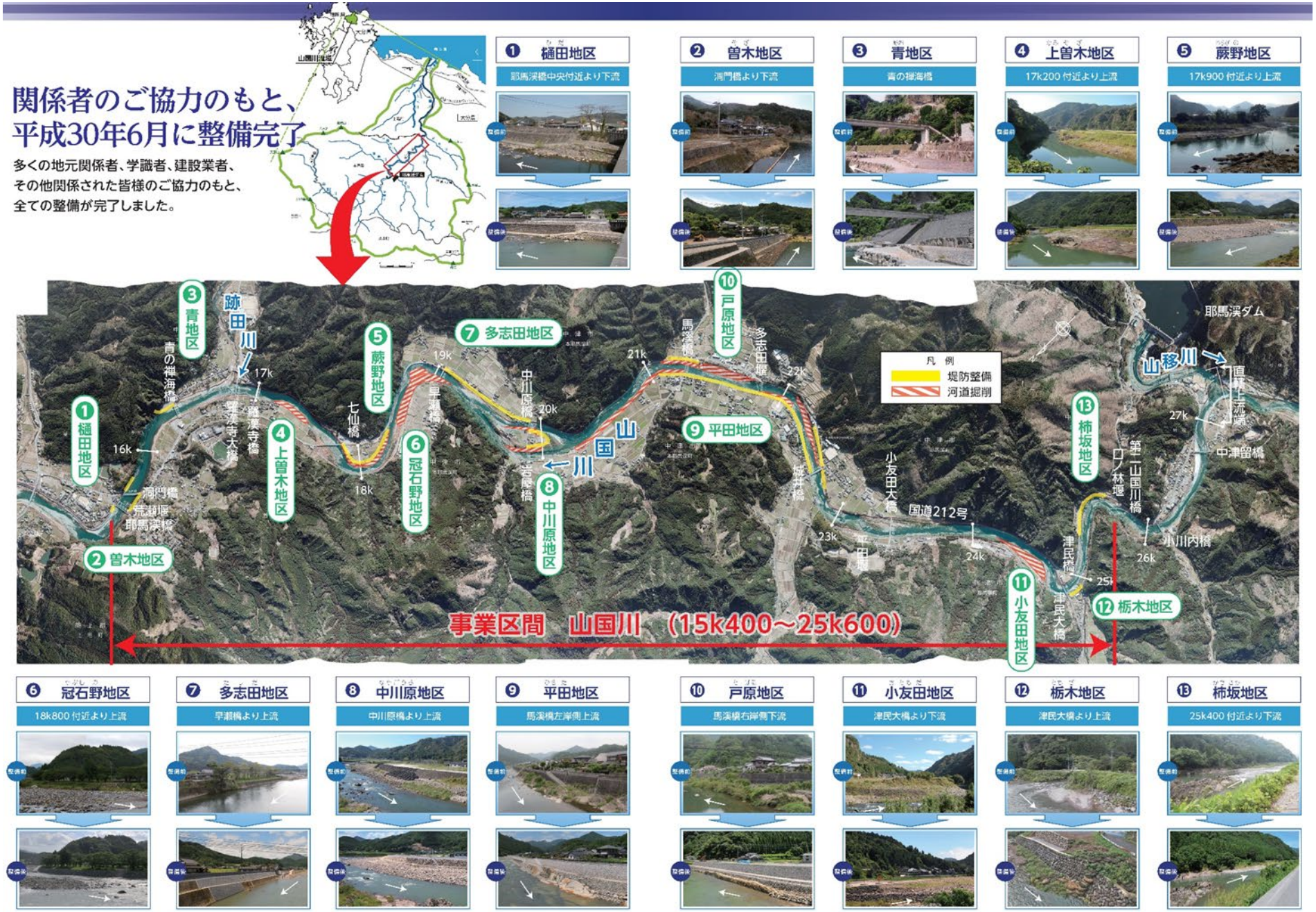
・7月 3日	6:50	中津市	青地区（上曽木観測所対象）の降雨量増加中
・7月 3日	7:50	中津市	青地区（上曽木観測所対象）の水位上昇中
・7月 3日	9:45	上毛町	角原地区（下角原観測所対象）の水位上昇中
・7月13日	12:42	中津市	柿坂水位観測所がはん濫危険水位を超える見込み
・7月14日	5:36	中津市	柿坂観測所の水位が避難判断水位を超えた
・7月14日	6:55	上毛町	上曽木観測所の水位が、はん濫注意水位を超え更に上昇中
・7月14日	7:14	吉富町	下角原観測所水位が避難判断水位を超えた

床上浸水対策特別緊急事業整備完了（平成25年度～平成30年6月）

国土交通省

関係者のご協力のもと、平成30年6月に整備完了

多くの地元関係者、学識者、建設業者、その他関係された皆様のご協力のもと、全ての整備が完了しました。



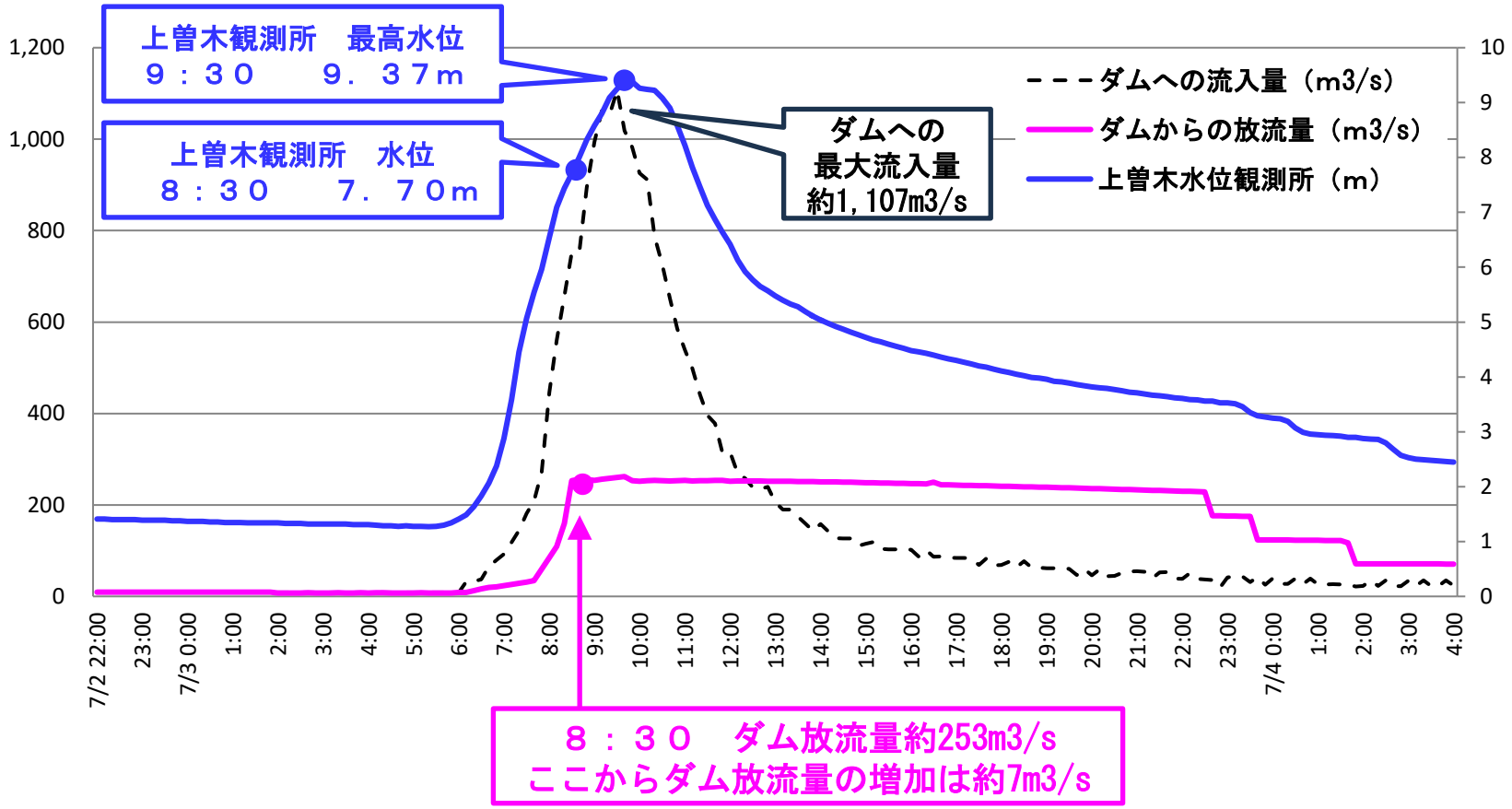
九州北部豪雨（平成24年7月3日出水）

平成24年7月3日出水

平成24年7月3日出水では、ダムへの最大流入量が約1,107m3/s、最大流入時のダム放流量が約260m3/sであり、下流へ流す水量を最大約847m3/s 低減しました。

8:30まではダム放流量を増加し、上曽木水位観測所（本耶馬渓町）の流量も増加していますが、8:30以降も観測所の水位は上昇しています。

平成24年7月3日　ダム流入量・放流量と上曽木観測所の水位

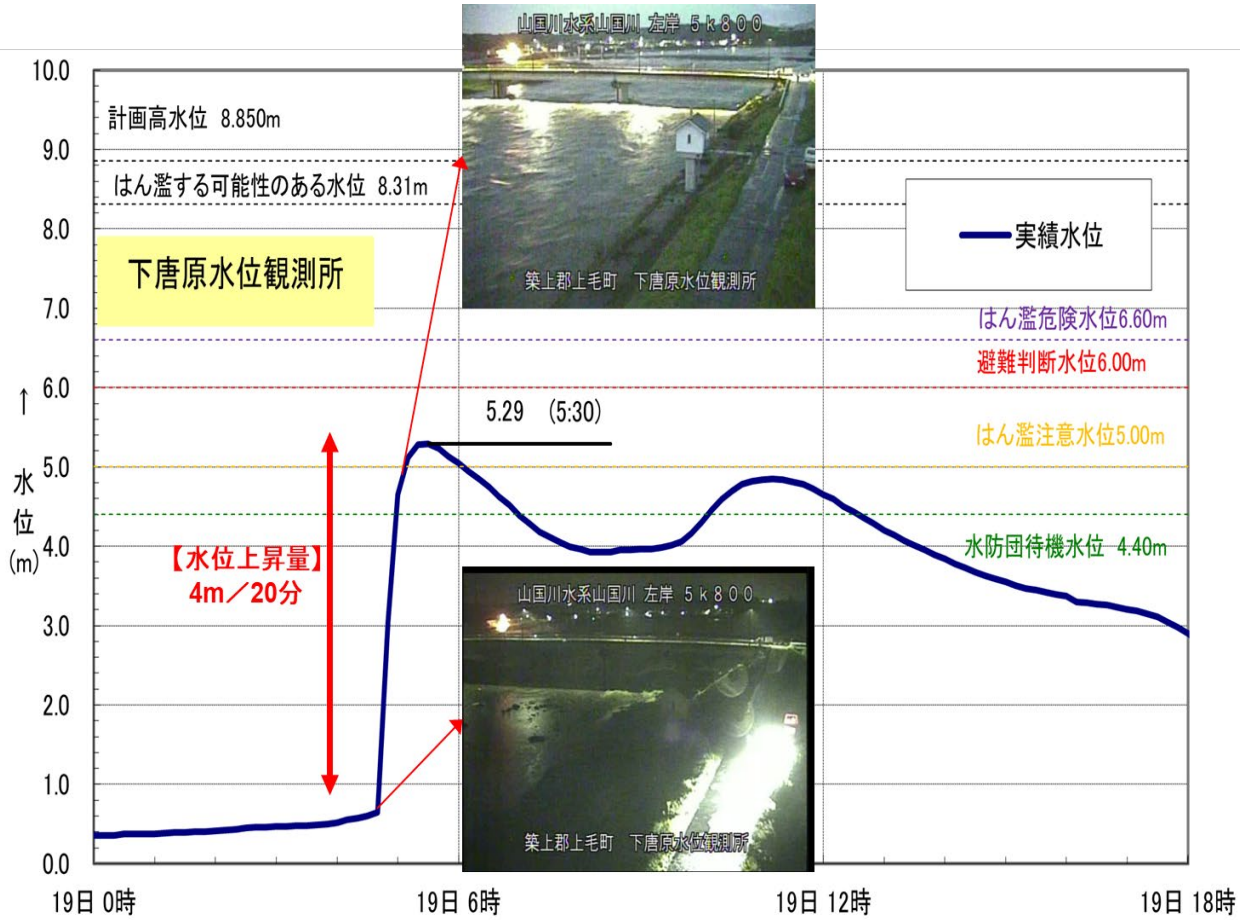


令和4年7月出水

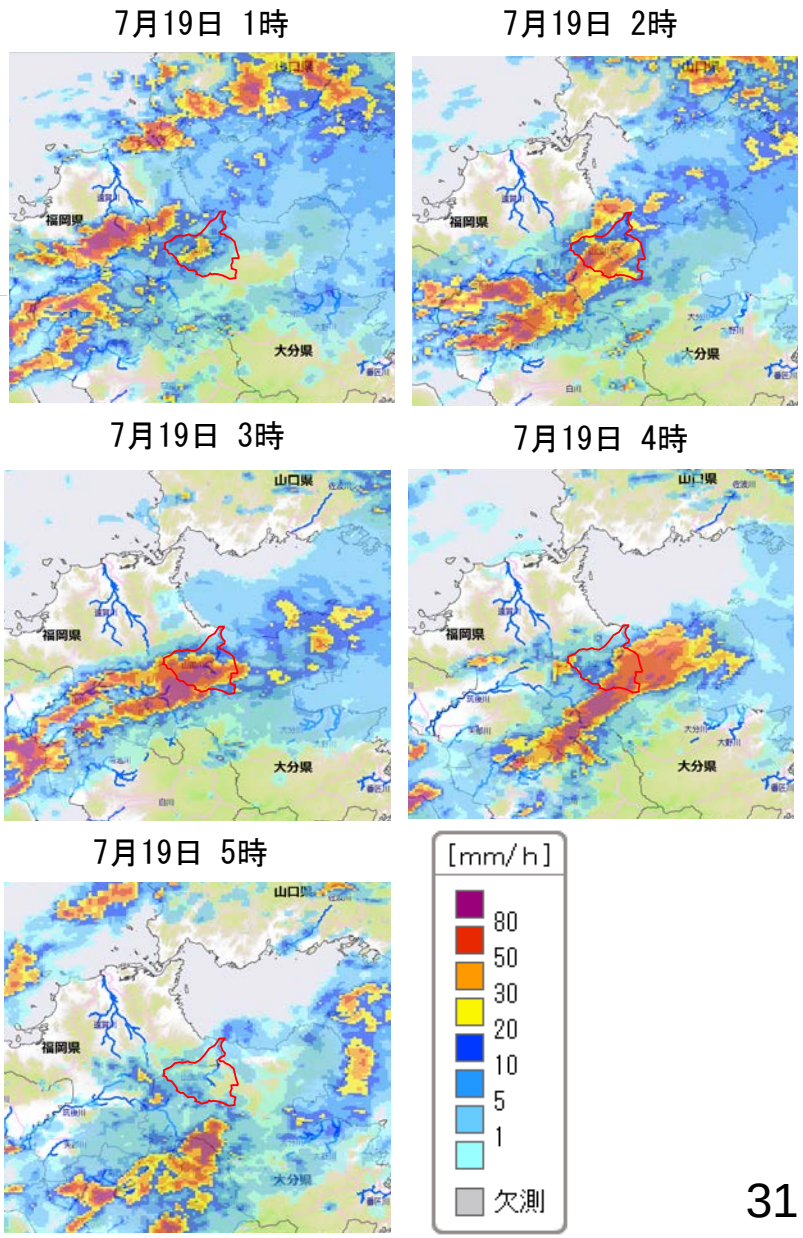
国土交通省

■18日午後から19日午前中にかけて長崎県壱岐・対馬、山口県、福岡県、大分県では線状降水帯による猛烈な雨や非常に激しい雨が降り「顕著な大雨に関する気象情報」が発表されました。

令和4年7月19日　下唐原水位観測所（上毛町）の実績水位



令和4年7月19日出水状況（レーダ雨量の時系列図）



令和5年7月豪雨

国土交通省

■令和５年７月９日から１０日にかけ、梅雨前線が九州北部付近に停滞、大気の状態が非常に不安定となり、７月１０日(8:29)大分県北部･西部に「線状降水帯発生情報」、同日(9:05)大分県日田･玖珠に「大雨特別警報」発表されました。
■このため、山国川流域には、早朝から非常に強い雨域がかかり、「柿坂観測所」「下唐原観測所」において、氾濫危険水位を超過、複数箇所で氾濫が発生しました。

①中津市本耶馬渓町多志田地区(右岸18k800)

平常時の様子

溢水時の様子(7月10日10時頃)

②中津市耶馬渓町柿坂地区(右岸26k800)

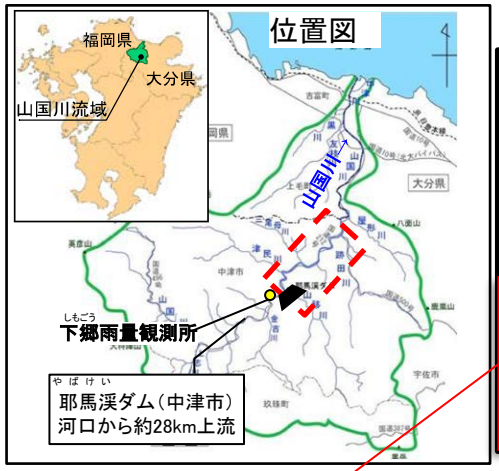
平常時の様子

溢水時の様子(7月10日10時頃)

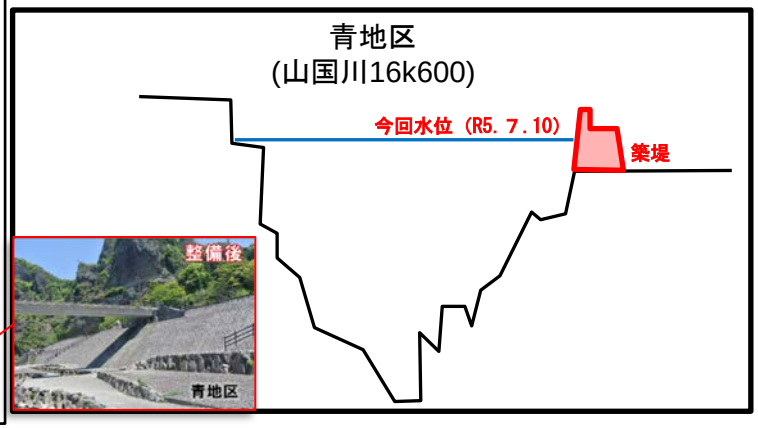
令和5年7月豪雨

国土交通省

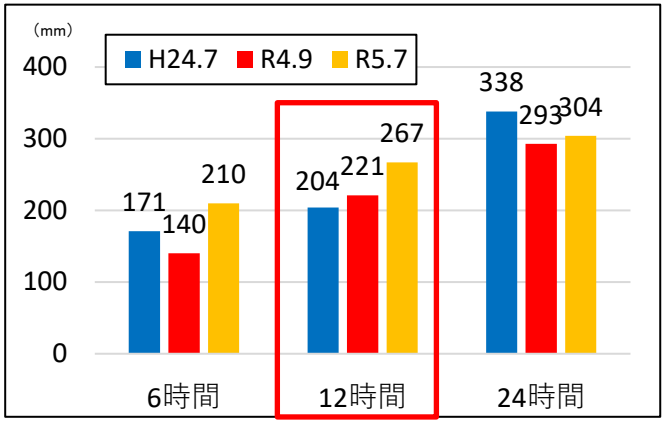
〇山国川の氾濫により中津市に大きな被害をもたらした平成24年7月出水を上回る雨量を山国川上流域で観測（下郷雨量観測所では12時間で267mmの雨量を記録）したが、山国川の氾濫による家屋浸水被害は大幅に減少しました。
〇山国川においては、平成24年7月出水以降、河道掘削や堤防整備、耶馬渓ダムによる洪水調節を実施しており、これら治水対策の効果が発現されたものと考えられます。

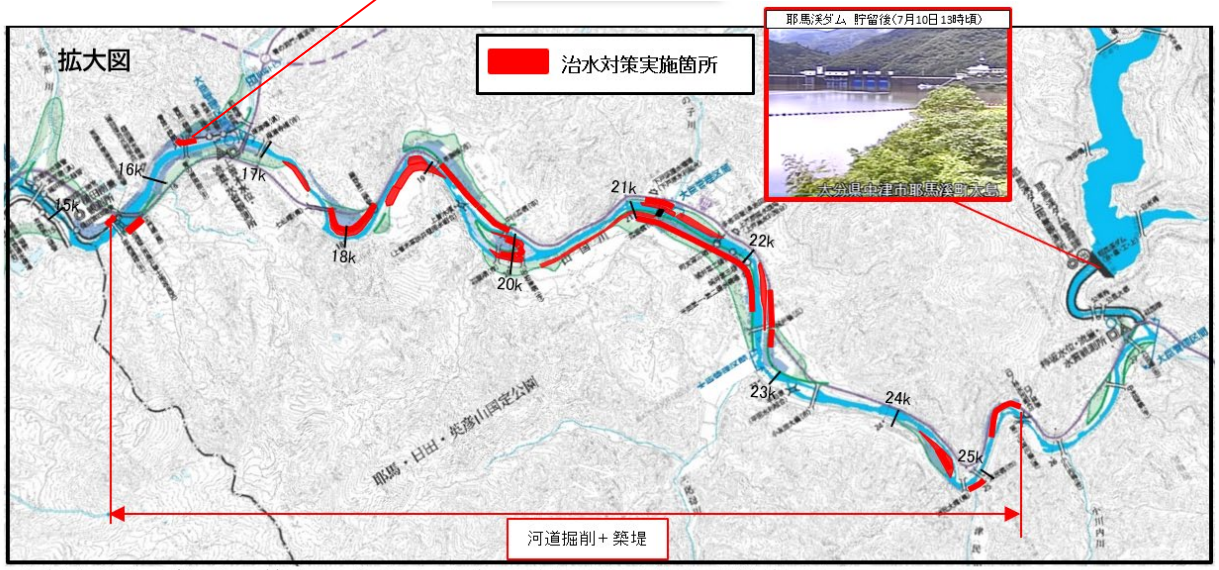


■整備内容

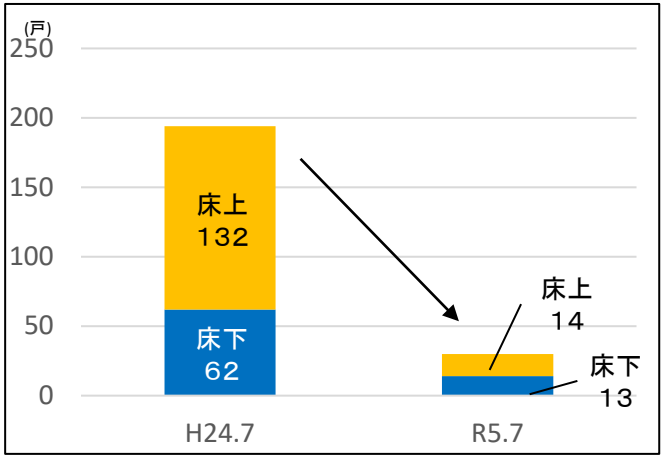


■雨量比較（下郷雨量観測所（耶馬渓町））





■浸水戸数比較



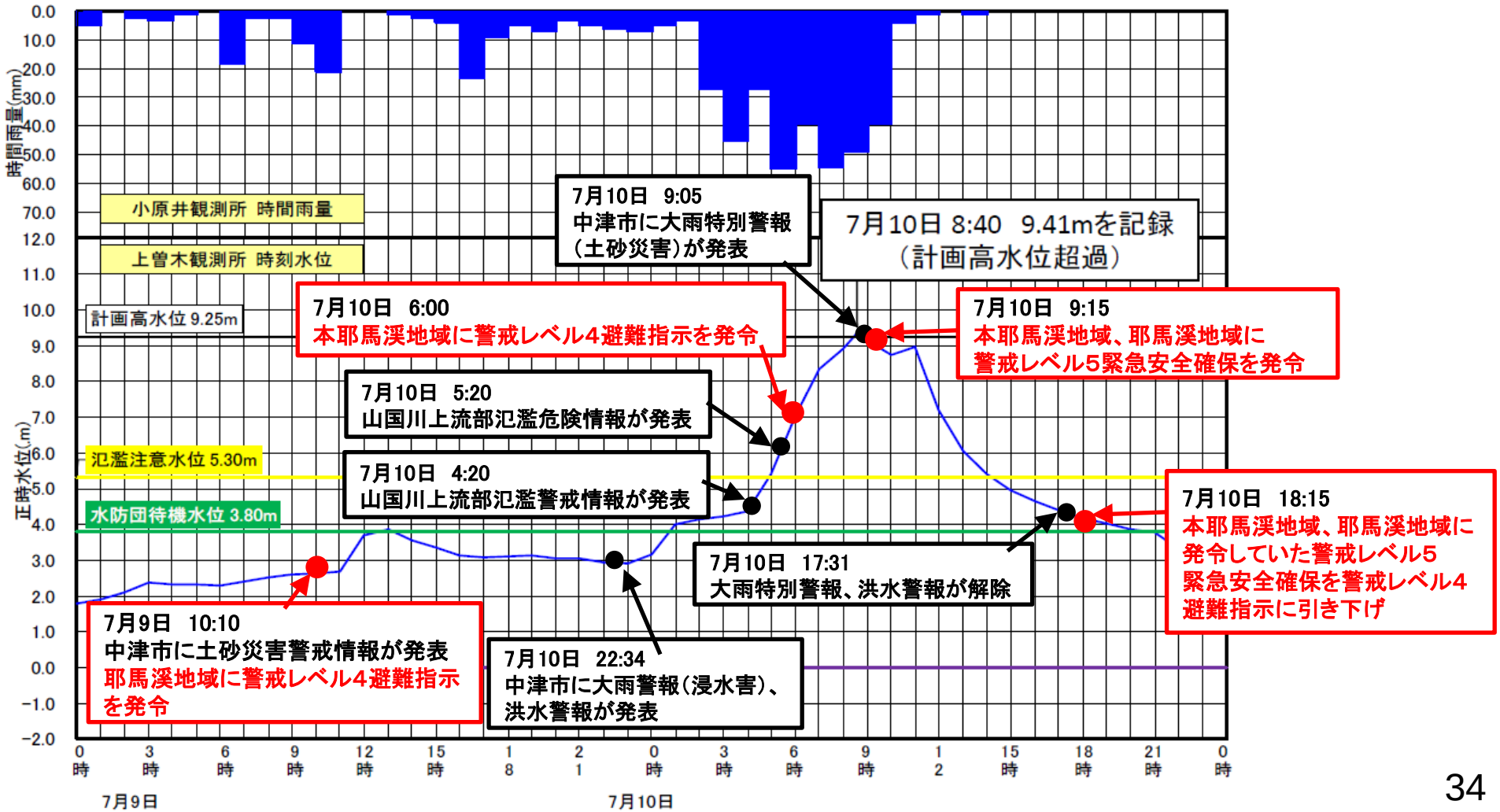
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。

令和5年7月豪雨

国土交通省

○上曽木水位観測所（本耶馬渓町）では、計画高水位を超過し、観測史上第１位の水位を記録しました。
○土砂災害警戒情報や山国川上流部氾濫危険情報発表後に避難指示が発令されていました。

令和5年7月9日～10日　上曽木観測所（本耶馬渓町）の水位と降雨

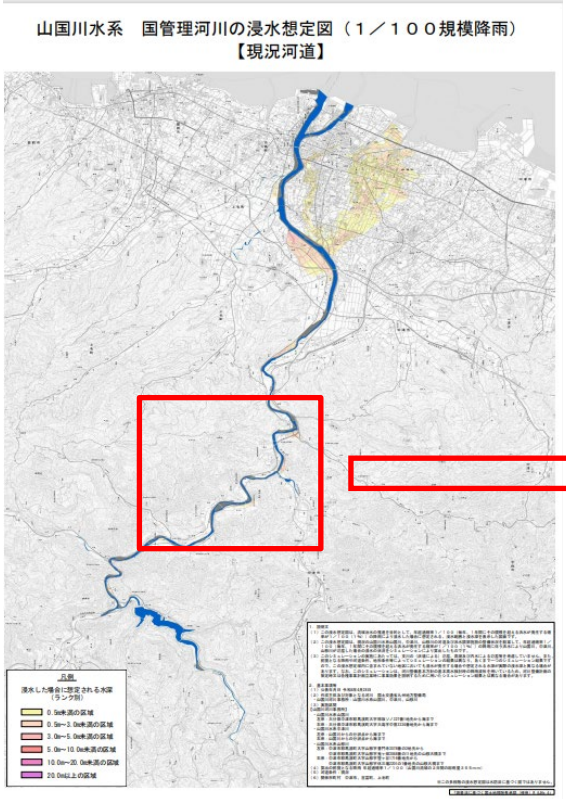


計画規模降雨時の状況

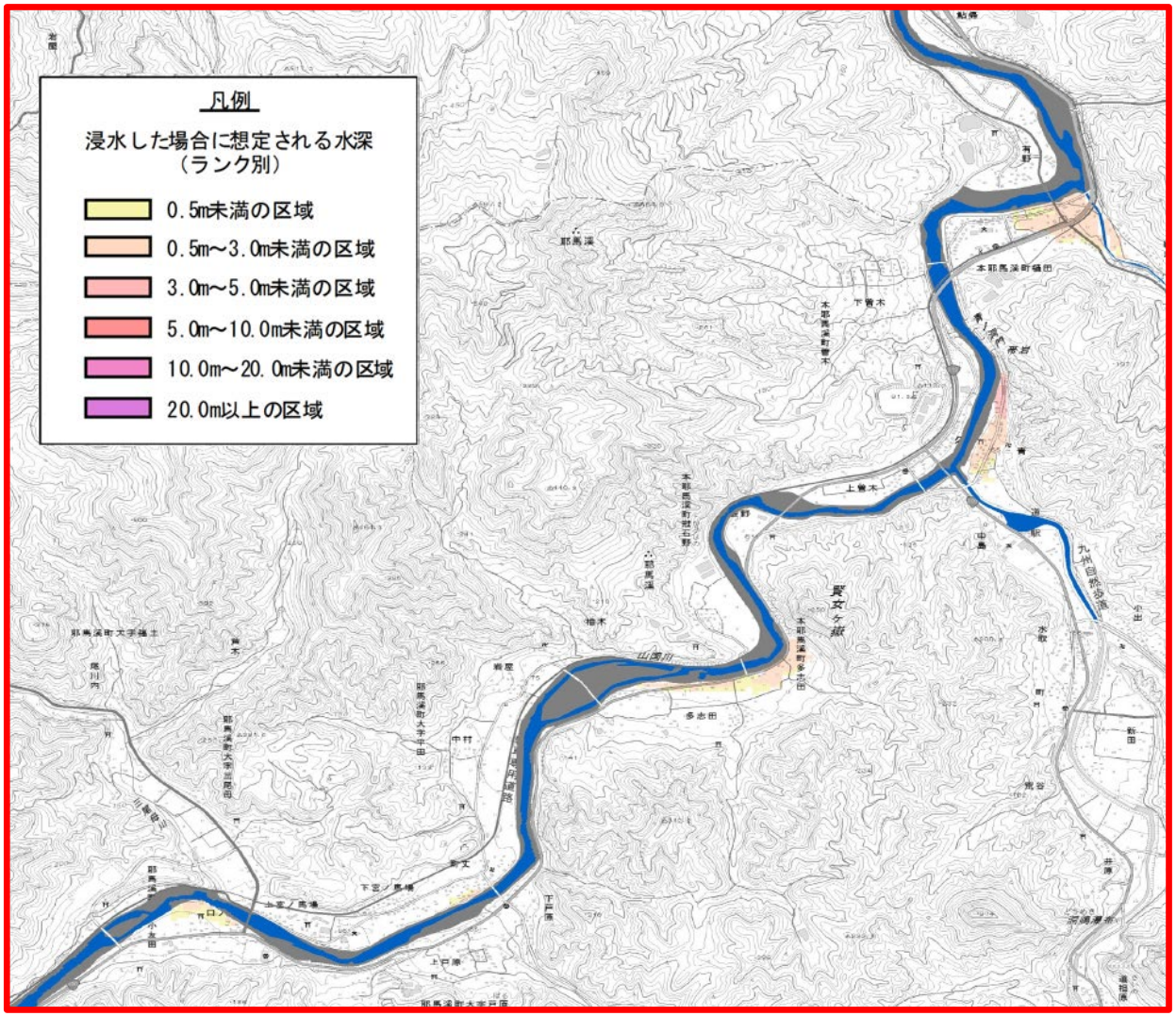
国土交通省

計画規模の浸水想定図【現況河道】

100年に1回程度起こりうる大雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面



山国川河川事務所ホームページ掲載資料

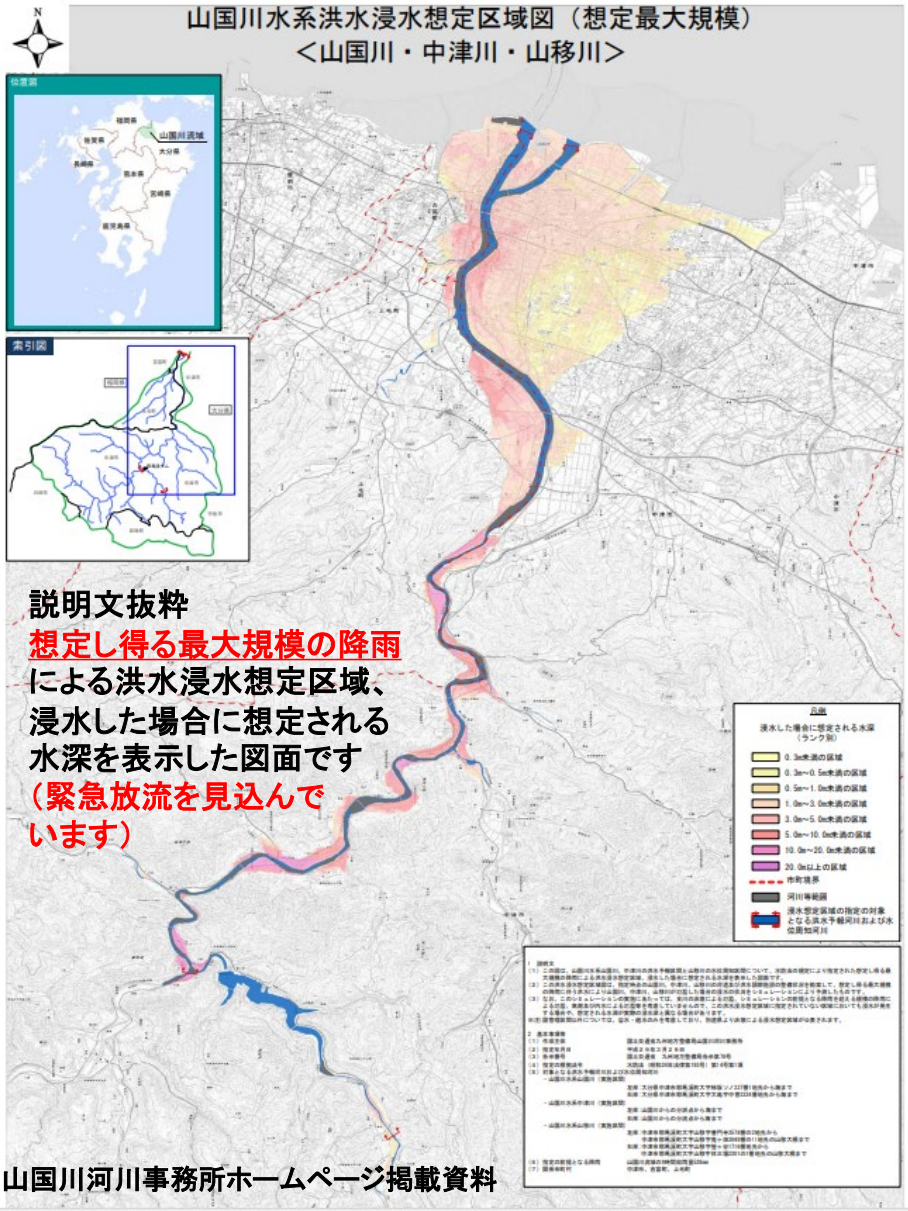


計画規模の浸水想定図では、緊急放流を見込んでいません

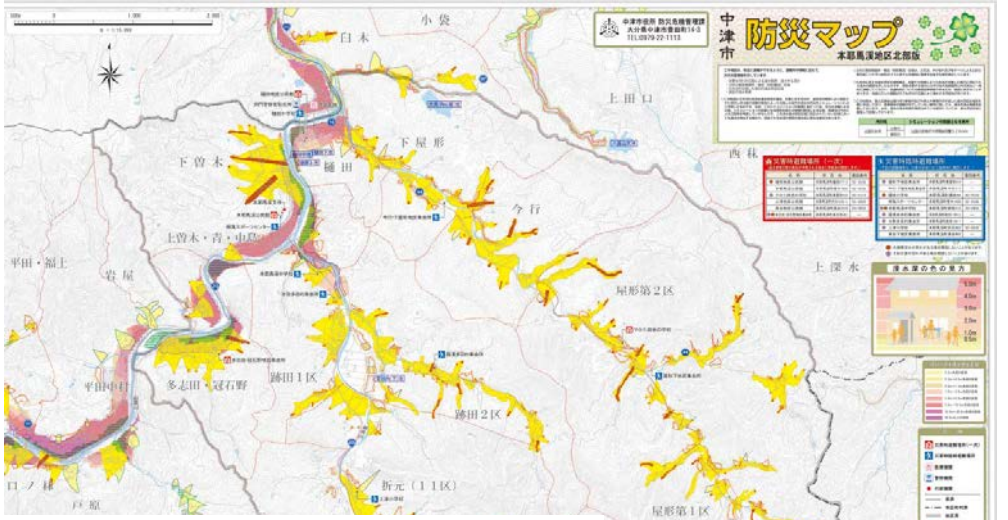
緊急放流実施時の状況（想定最大規模の浸水想定）

国土交通省

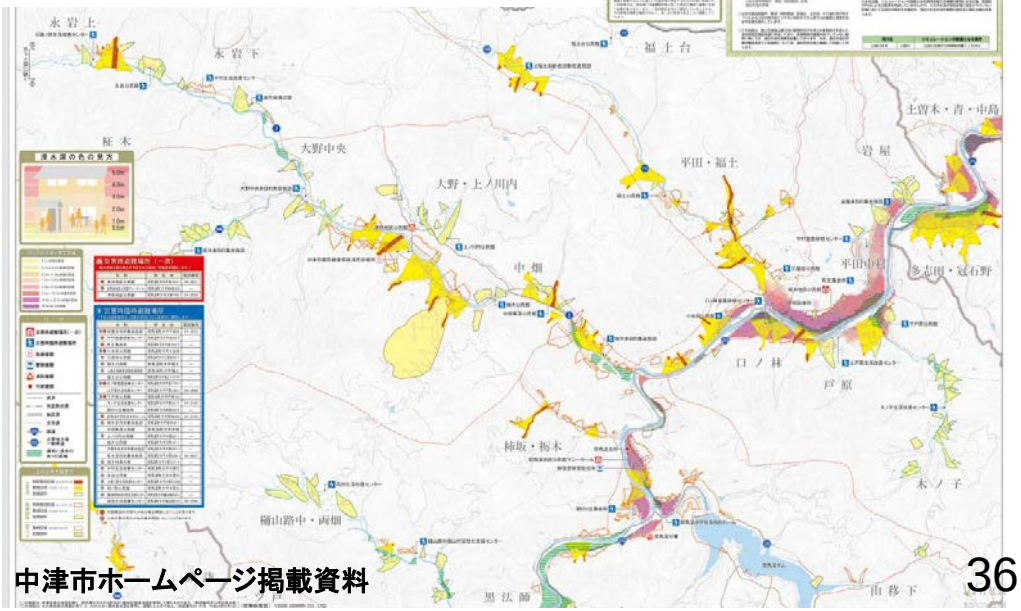
山国川水系洪水浸水想定図（想定最大規模）



山国川河川事務所ホームページ掲載資料



中津市防災マップ
上図：地図面　本耶馬渓町北
下図：地図面　耶馬渓町北部



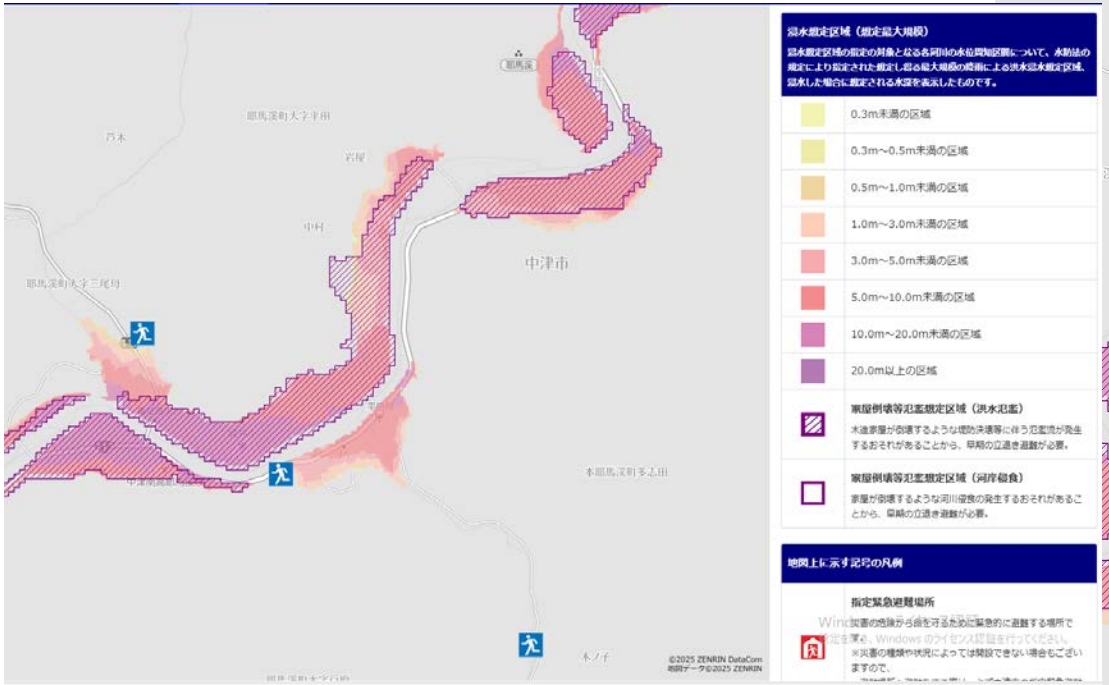
中津市ホームページ掲載資料

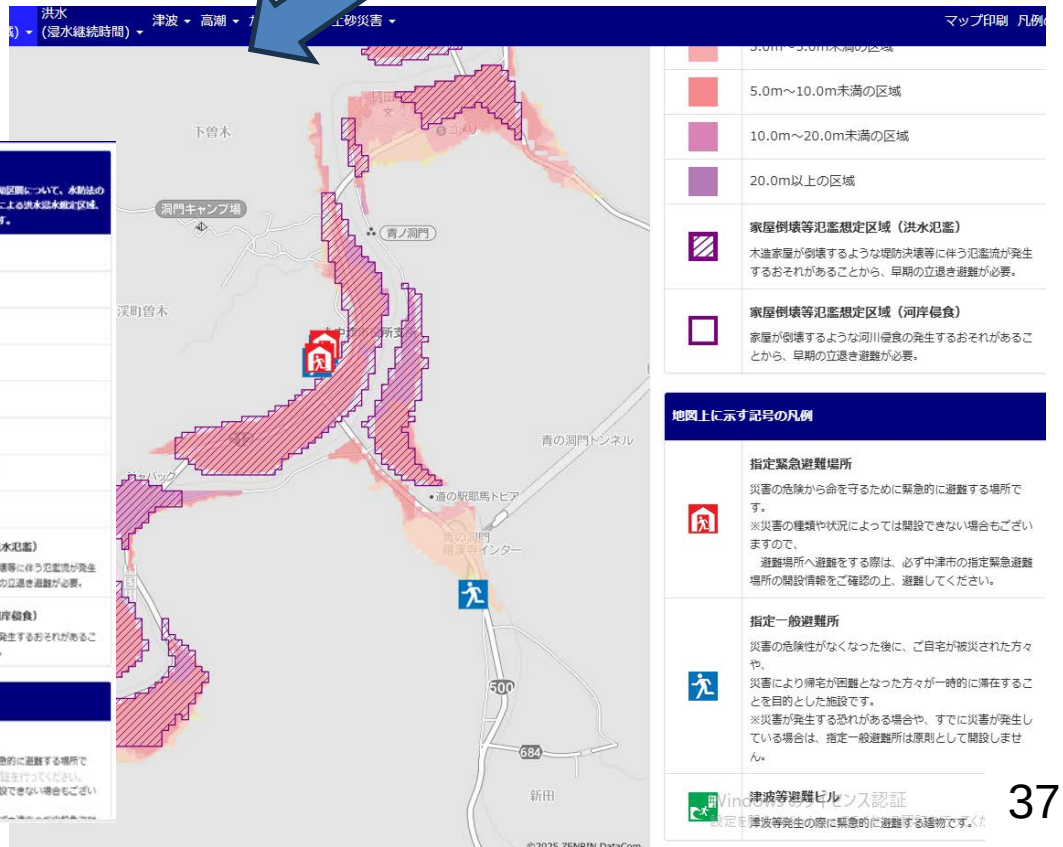
緊急放流実施時の状況（想定最大規模の浸水想定）

国土交通省

中津市防災マップ（WEB版）

中津市防災マップ（WEB版）では、河川の洪水に対するマップだけを確認することができます





計画規模を超える出水への取り組み（事前放流）

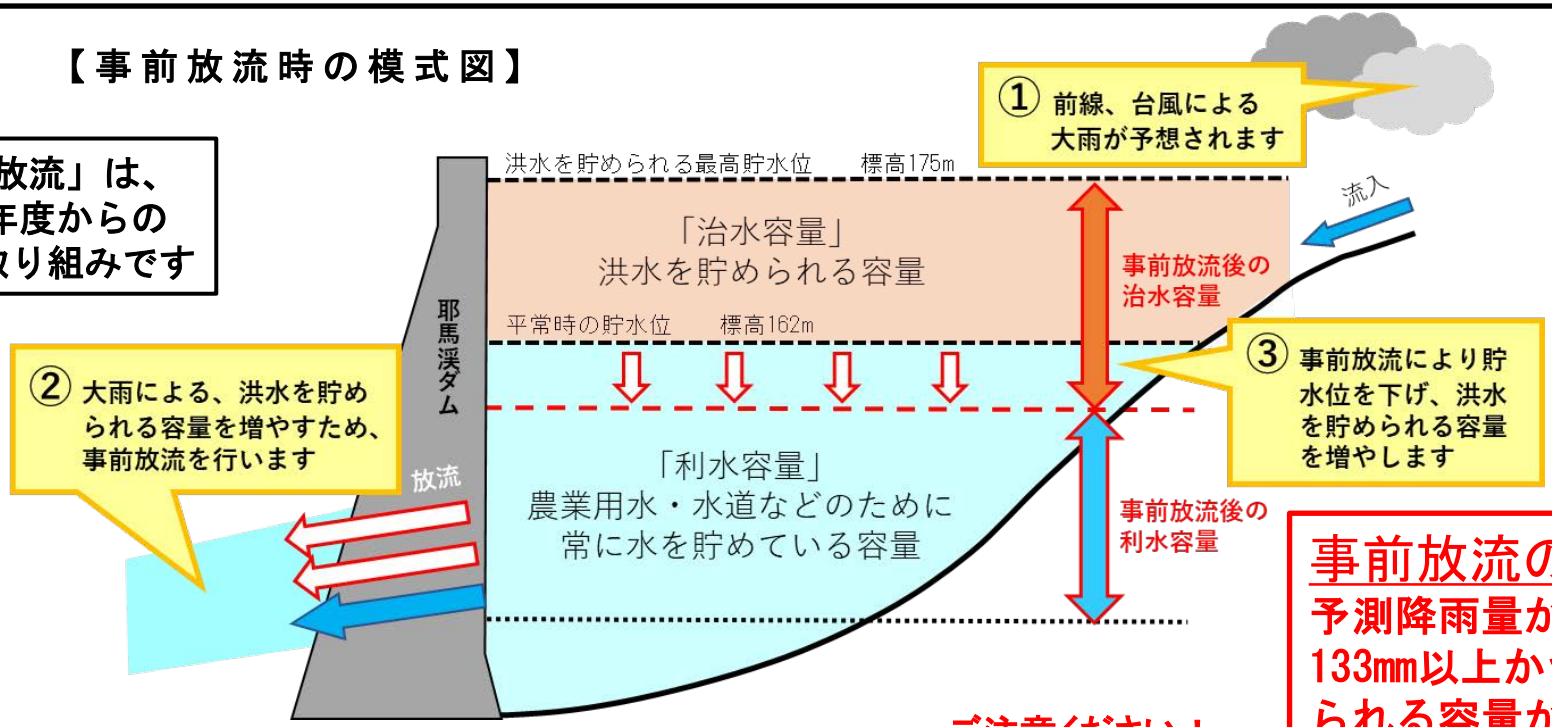
国土交通省

「事前放流」とは？

前線や台風などによる大雨によって耶馬渓ダムの施設能力を超える洪水が予想される場合、洪水が発生する前にダムから放流を行い、あらかじめ貯水位を下げて洪水を貯められる容量を増やす操作のことです。
これにより、耶馬渓ダムより下流河川の洪水被害防止・軽減を図ります。

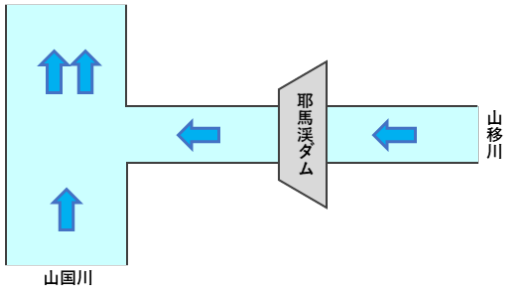
【事前放流時の模式図】

「事前放流」は、
令和2年度からの
新しい取り組みです

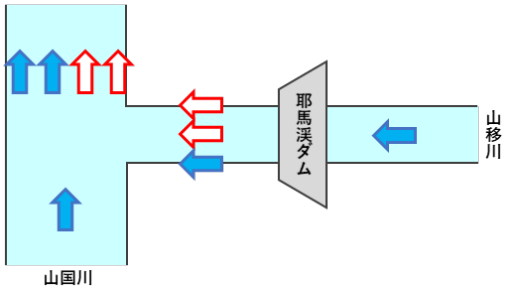


事前放流の実施条件
予測降雨量が６時間で133mm以上かつ洪水を貯められる容量が不足する場合

【平常時】



【事前放流時】



ご注意ください！

・事前放流は、洪水が予想される3日前から行う場合があります。

・予測によっては、雨が降ってない状況下でもダムから事前放流を行うことが想定され、それに伴い河川流量が増え、河川水位が上昇します。

山国川の特徴（山国川における過去の渇水の概要）

国土交通省

○水利用が安定してなされるよう、山国川本川流量が減少した場合には、耶馬渓ダムから補給を実施しているが、貯水位が70%を下回る恐れがある場合には、「山国川中下流域水利用連絡協議会」を開催し、利水者の協力を得て取水制限や住民への節水協力の呼びかけなどを行っています。
○山国川では、耶馬渓ダム完成後(S64)、H4年度からの**32年間で16回**の取水制限（自主節水含む）を行っています。

【H13以前】　ダムの不特定用水の放流により取水制限それまで利水者個別に自主節水
【H14～H22】　ダム貯水率60%で取水制限
【H23以降】　ダム貯水率60%で自主節水
ダム貯水率40%で取水制限

耶馬渓ダムの貯水池の状況
（太平橋より上流を撮影）

取水制限まで至った年度とその内容

No.	年	期間	種別	取水制限・自主節水
1	平成6年	7月22日 ～ 7月26日	取水制限	
2		8月1日 ～ 10月11日	取水制限	上水道10%、工業用水30%、農業用水30%
3	平成10年	9月8日 ～ 9月20日	取水制限	全利水者30%
		9月21日 ～ 9月29日	取水制限	上水道30%、工業用水40%、農業用水40%
4	平成14年	8月24日 ～ 8月26日	取水制限	上水道10%、工業用水10%、農業用水30%
5		9月10日 ～ 10月21日	取水制限	上水道10%、工業用水10%、農業用水30%
6	平成17年	6月22日 ～ 6月27日	取水制限	上水道10%、工業用水67% ①農業用水30%（大井手堰、荒瀬井堰以外） ②農業用水20%（大井手堰：田植終了後30%） ③農業用水0%（荒瀬井堰：田植終了後30%）
		6月28日 ～ 7月2日	取水制限	上水道15%, 工業用水67%, 農業用水40%（荒瀬以外） 農業用水（荒瀬井堰）30%（田植終了後40%）
7		8月30日 ～ 9月6日	取水制限	上水道10%, 工業用水67%, 農業用水30%
8	平成20年	8月15日 ～ 8月18日	取水制限	上水道10%, 工業用水67%, 農業用水30%
9	平成21年	9月12日 ～ 10月15日	取水制限	農業用水30%
10	平成22年	9月13日 ～ 9月28日	取水制限	上水道10%, 工業用水80%, 農業用水30%
11	平成25年	8月13日 ～ 8月22日	自主節水	上水道10%, 工業用水70%, 農業用水20～30%
		8月23日 ～ 8月26日	取水制限	上水道15%, 工業用水75%, 農業用水30～40%
12	平成28年	8月23日 ～ 9月14日	自主節水	上水道10%, 工業用水70%, 農業用水20～30%
13	平成29年	6月19日 ～ 7月14日	自主節水	全利水者10～30%
14	平成30年	8月9日 ～ 8月29日	自主節水	全利水者
		8月30日 ～ 9月10日	取水制限	上水道20%, 工業用水75%, 農業用水30～40%
15	令和2年	9月4日 ～ 9月23日	自主節水	上水道10%, 工業用水70%, 農業用水10～30%
16	令和6年	8月19日 ～ 9月2日	自主節水	全利水者による自主節水申し合わせ
				8/26の代表幹事会にて、耶馬渓ダムの貯水率が40%を下回った時点で、上水道20%, 工業用水70%, 農業用水30%の取水制限を行う予定だったが、台風10号の接近に伴い8/28見送り

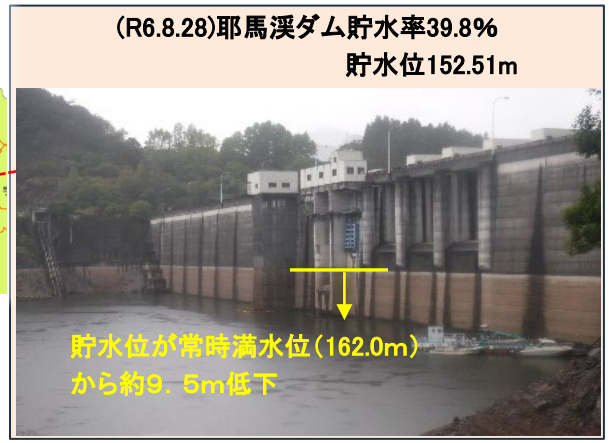
山国川の特徴（令和6年8月　耶馬渓ダムより約540万m3の水を補給）

国土交通省

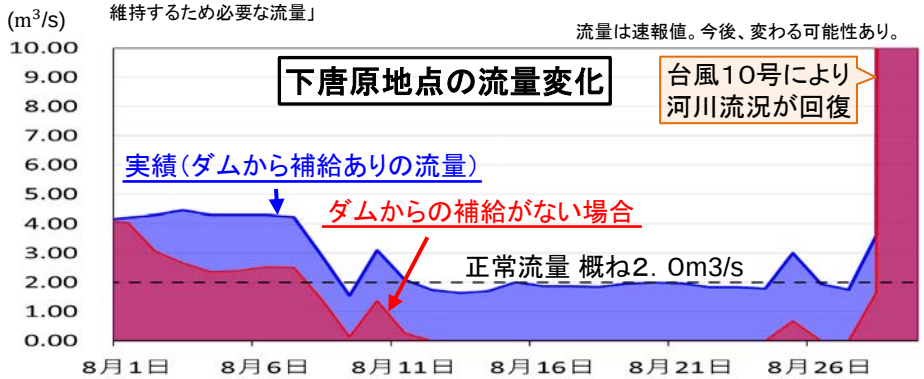
山国川流域では、令和6年8月1日から8月27日までまとまった降雨が無く、8月27日までの降水量は平年の約6%※1）程度にとどまり、河川の水量が減少傾向になりました。

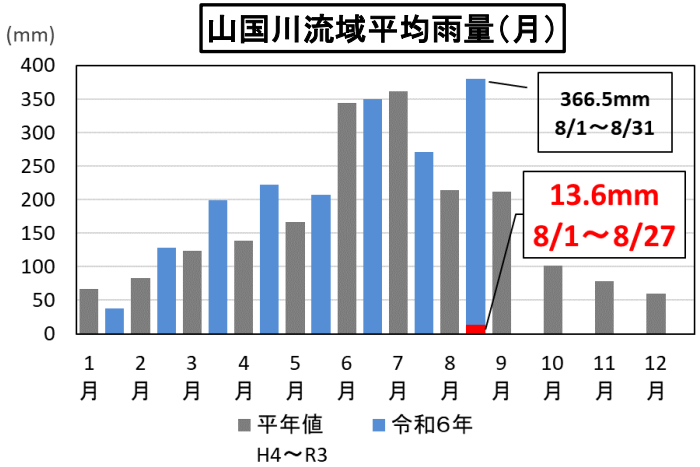
その結果、河川流況や上水道・工業用水・農業用水等の水利用に支障を来す恐れが生じたため、耶馬渓ダムでは8月1日より山国川下流へ向けて、28日間（8月1日～28日）で約540万m³（みずほPayPayドーム福岡約3杯分※2）の水を補給し、下唐原地点において概ね正常流量※3が確保された。その後台風10号による降雨によって、河川流況が改善し、ダムの貯水量も回復しました。

もし、ダムからの補給がなかった場合、17日間程度は河川の水量が減少し、生物や水質、景観などの河川環境や上水道・工業用水・農業用水等の水利用に支障が生じたと推測されます。

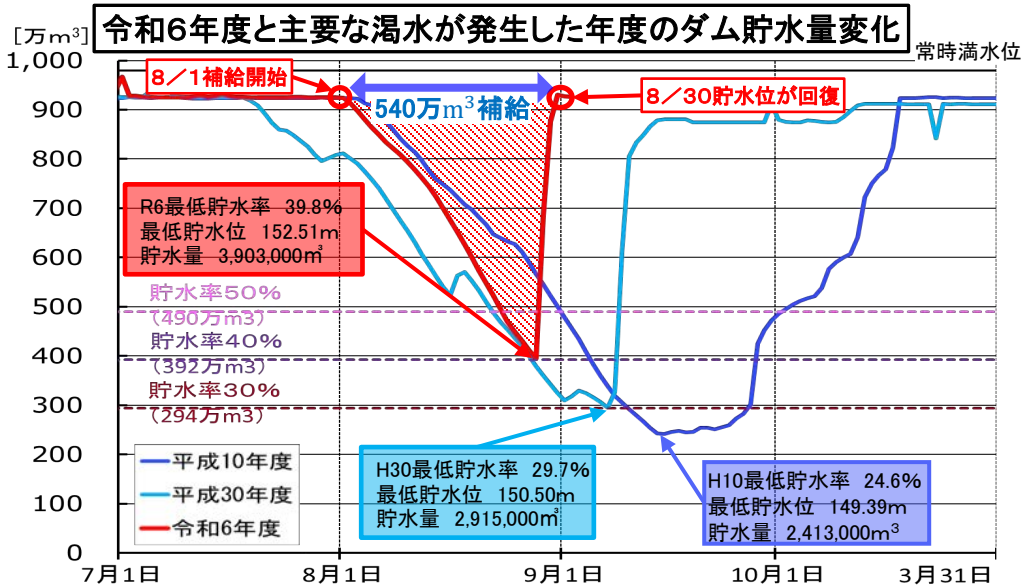


※1）平成4年以降の8月の流域平均雨量が平均214mmに対し、令和6年8月1日から27日までの累加雨量は13.6mm
※2）みずほPayPayドーム福岡の容量を176万m³として計算
※3）正常流量とは「農業用水や都市用水が安定して取水されるとともに、魚類等の生息環境や水質、河川景観等を維持するため必要な流量」





8月28日から、台風10号の接近により8月の雨は平年の1．7倍の降雨を記録。



耶馬渓ダムからの放流に関する情報について

サイレンとアナウンスによる注意喚起

緊急放流（異常洪水時防災操作）が予告されたら

ダムが低く抑えていた下流河川の水位が上昇する恐れ

下流の地域にいる人がとるべき行動は？

⇒ 自治体からの避難情報を確認、 早めの避難行動を

情報を入手する手段

自治体

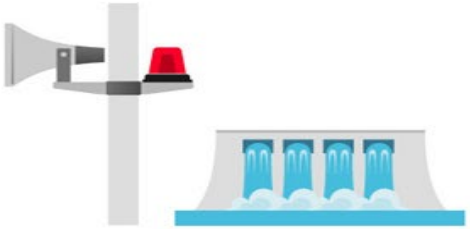
防災行政無線

メール・SNS など

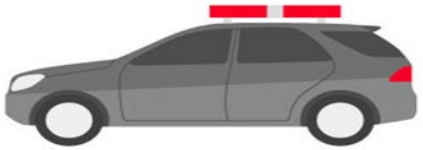
メディア

インターネット
スマホアプリ
テレビ・ラジオなど

ダム管理者



サイレン



警報車

Yahoo! ニュース オリジナル
監修：国土交通省

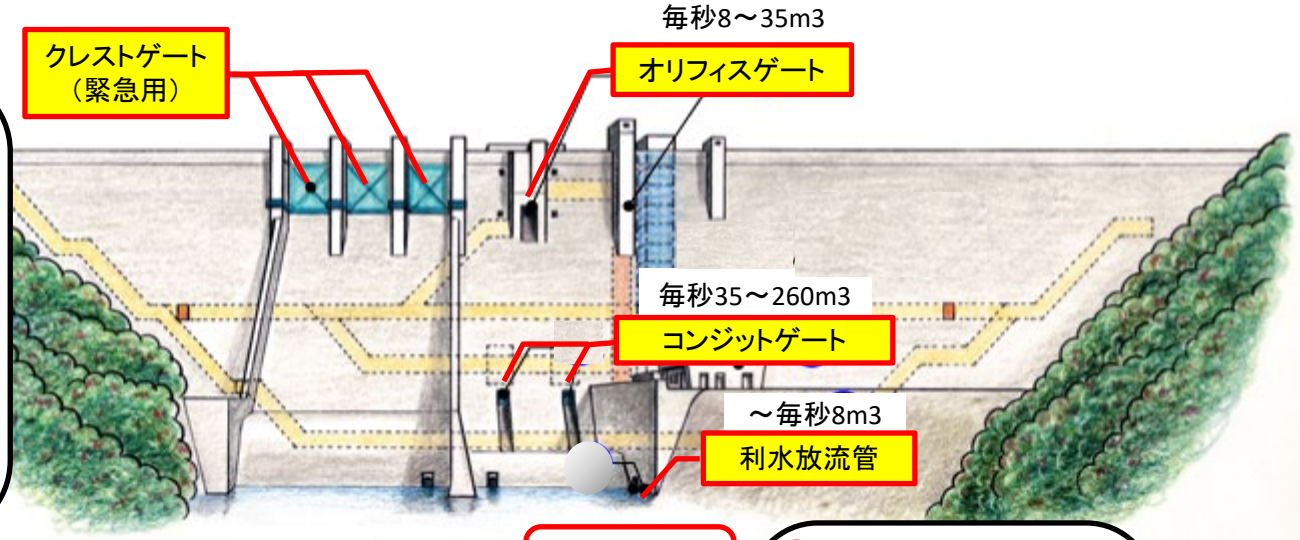
サイレン吹鳴による注意喚起

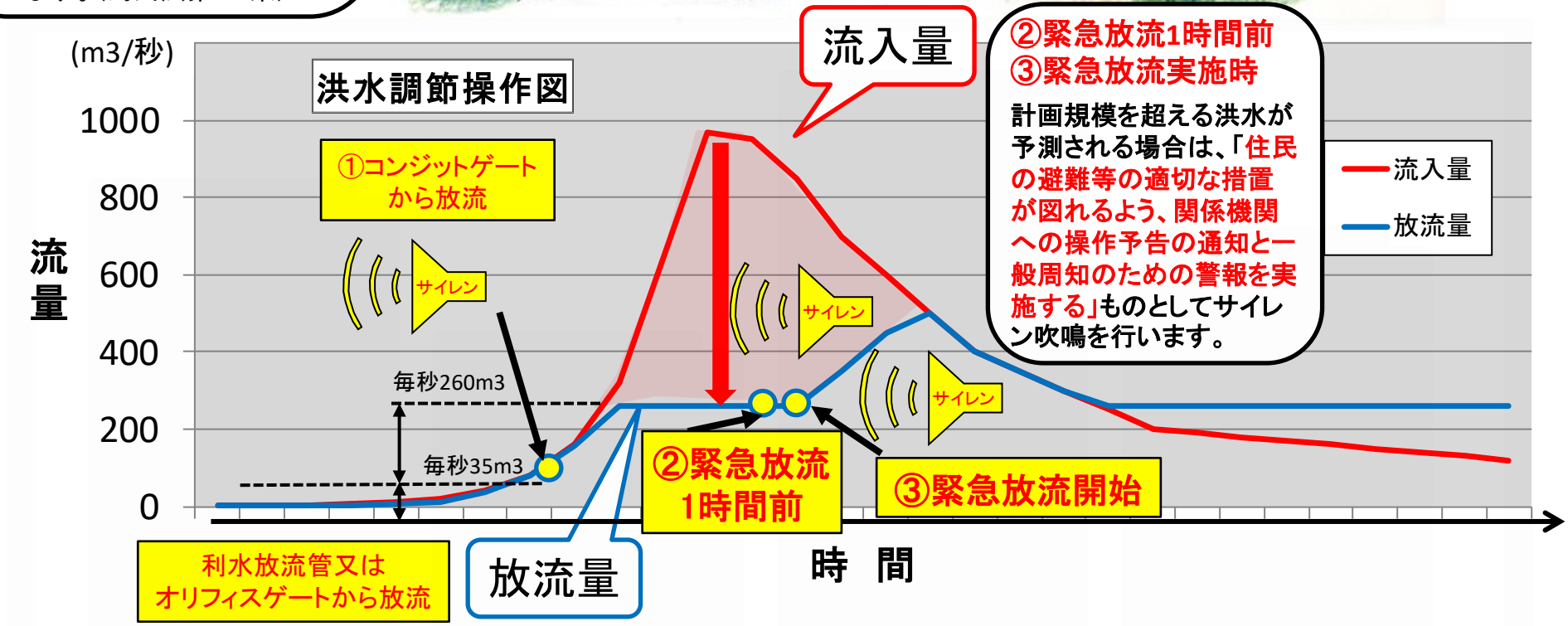
国土交通省

①コンジットゲートからの放流時

放流量が毎秒35m3を越えコンジットゲートから放流する際にサイレンを鳴らします。

サイレンは、ダムからの放流量が増える時に、河川の中にいる利用者の方に対して、退避するよう注意喚起することを目的としています。（河川法第48条）





サイレン吹鳴による注意喚起

国土交通省

○耶馬渓ダムのサイレンは、山移川の合流後、山国川本川の「青の洞門」付近までに１０箇所あります。

- 柿　坂（国道２１２号沿い　耶馬渓中学校近く）
- 小川内（国道２１２号から、小川内橋を渡った所）
- 栃　木（国道２１２号から、津民大橋を渡った所）
- 小友田（国道２１２号から、小友田大橋を渡った所）
- 平　田（城井小学校近く）
- 金　吉（国道２１２号から、馬渓橋を渡った所）
- 多志田（国道２１２号から、中川原橋を渡った所）
- 冠石野（国道２１２号沿い　七仙橋近く）
- 上曽木（国道２１２号沿い　禅海橋近く）
- 洞　門（国道２１２号沿い　洞門橋近く）

サイレン吹鳴時には警報車による巡視、警報も併せて行います。

左：情報表示盤と右：スピーカー

ゲート放流開始時のサイレン吹鳴

60秒	10秒	60秒
鳴る!!	休み!!	鳴る!!

緊急放流のサイレン吹鳴

60秒	10秒	60秒	10秒	60秒	10秒	60秒
鳴る!!	休み!!	鳴る!!	休み!!	鳴る!!	休み!!	鳴る!!

ゲート放流開始と緊急放流のアナウンスとサイレンをご確認ください

緊急放流の１時間前と緊急放流時にサイレンを4回吹鳴します

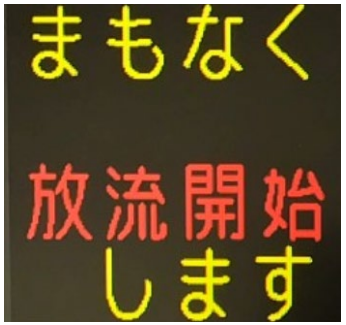
情報表示盤による注意喚起

国土交通省

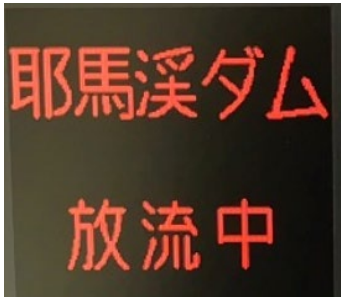
ダム下流域に3箇所設置している情報表示板により、ダムの情報をお知らせします。

情報表示板は毎秒35m3以上の放流がある場合等に、ダムの状況をお知らせいたします。

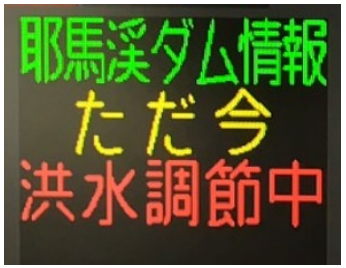
山国川17/000付近の情報表示盤



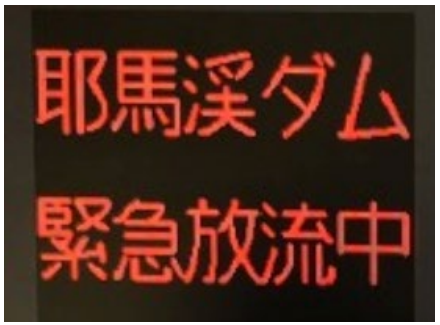
毎秒35m3以上の放流前



毎秒35m3以上を放流中



洪水調節中



緊急放流中

耶馬渓ダムからの放流に関する情報について

その他の情報

緊急放流　放流通知・記者発表

国土交通省

緊急放流を実施する際の関係機関への通知並びに記者発表は、約3時間前・約1時間前・開始後にそれぞれお知らせします。

3時間前通知（関係機関へ）

通知 7

ダム連絡

緊急　耶馬渓ダム

第　　号

通知（受信確認が必要です）

【重要通知　緊急放流　3時間前】

令和　　年　　月　　日　　時　　分

耶馬渓ダム

発信者　：

＜ダム操作に関する通知＞

山国川水系山移川 耶馬渓ダム(大分県中津市耶馬渓町)では現在、防災操作(洪水調節)を行っています。

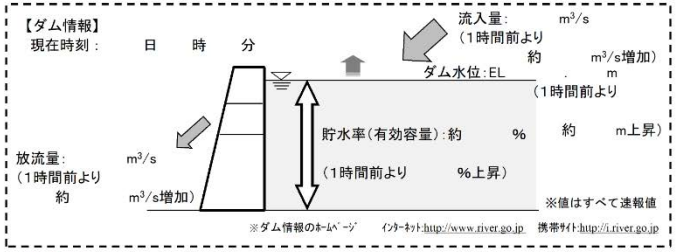
今後、計画規模を超える洪水が予想されるため、ダムに水を貯められなくなり、　月　日　時　分頃から下流に流れる水量が増える緊急放流(異常洪水時防災操作)を実施します。

そのため、洪水氾濫のおそれがあります。

移行する場合は、おおむね1時間前にも事前通知をしますので、ダムからの連絡等に注意してください。

※今後の降雨状況により時間が前後する可能性がありますので、ご注意ください。

警戒レベル4相当　・ダム下流の河川で水量・水位が増加し、氾濫のおそれがあり。
・避難指示等の措置が必要。



■緊急放流について

本連絡での緊急放流とは、ダムの能力を超えるような大雨によりダムが満水になるとダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなることから、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるように増加させ、満水に達したらダムへの流入量をそのまま下流に通過させる操作（異常洪水時防災操作）を行うことです。

＜受信確認＞　耶馬渓ダム　TEL:54－3136　FAX:54－2596

発信機関	発信者	発信時刻	受信機関	受信者	受信時刻

3時間前　記者発表

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

耶馬渓ダム防災操作情報（第１報）

～　緊急放流　３時間前　～

令和　年４月２３日１５時５０分
山国川河川事務所

＜ダム操作に関する通知＞

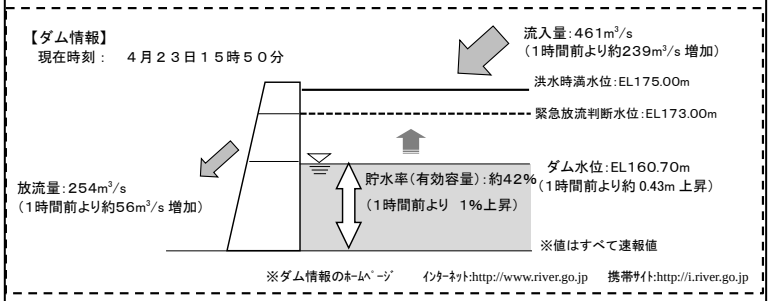
山国川水系山移川耶馬渓ダム（大分県中津市耶馬渓町）では、現在、防災操作（洪水調節）を行っています。

今後、計画規模を超える洪水が予想されるため、ダムに水を貯められなくなり、４月２４日１８時５０分頃から下流に流れる水量が増える緊急放流（異常洪水時防災操作）を実施します。

そのため、洪水氾濫のおそれがあります。

移行する場合は、おおむね１時間前にも通知しますので、ダムからの連絡等に注意してください。

※今後の降雨状況により時間が前後する可能性がありますので、ご注意ください。



■緊急放流について

本連絡での緊急放流とは、ダムの能力を超えるような大雨によりダムが満水になるとダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなることから、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるように増加させ、満水に達したらダムへの流入量をそのまま下流に通過させる操作（異常洪水時防災操作）を行うことです。

【問い合わせ先】
国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所
事務副所長　○○　○○　　電話：０９７９－２４－０５７１

山国川河川事務所ホームページ

国土交通省

耶馬渓ダムが洪水調節操作を実施している期間において、山国川河川事務所ホームページでダムの洪水調節操作状況及びダム下流地点の河川水位状況について情報提供を行っています。

緊急放流時には事務所ホームページのトップ画面でお知らせします。

インターネット公開画面は、スマホ、パソコンより下記のURLよりアクセスできます。

http://www.qsr.mlit.go.jp/yamakuni/yabakei/dam.html

画面にアクセスすると、耶馬渓ダムが洪水調節を行っている場合、「耶馬渓ダム洪水調節効果」をクリックすると画面が表示されます。

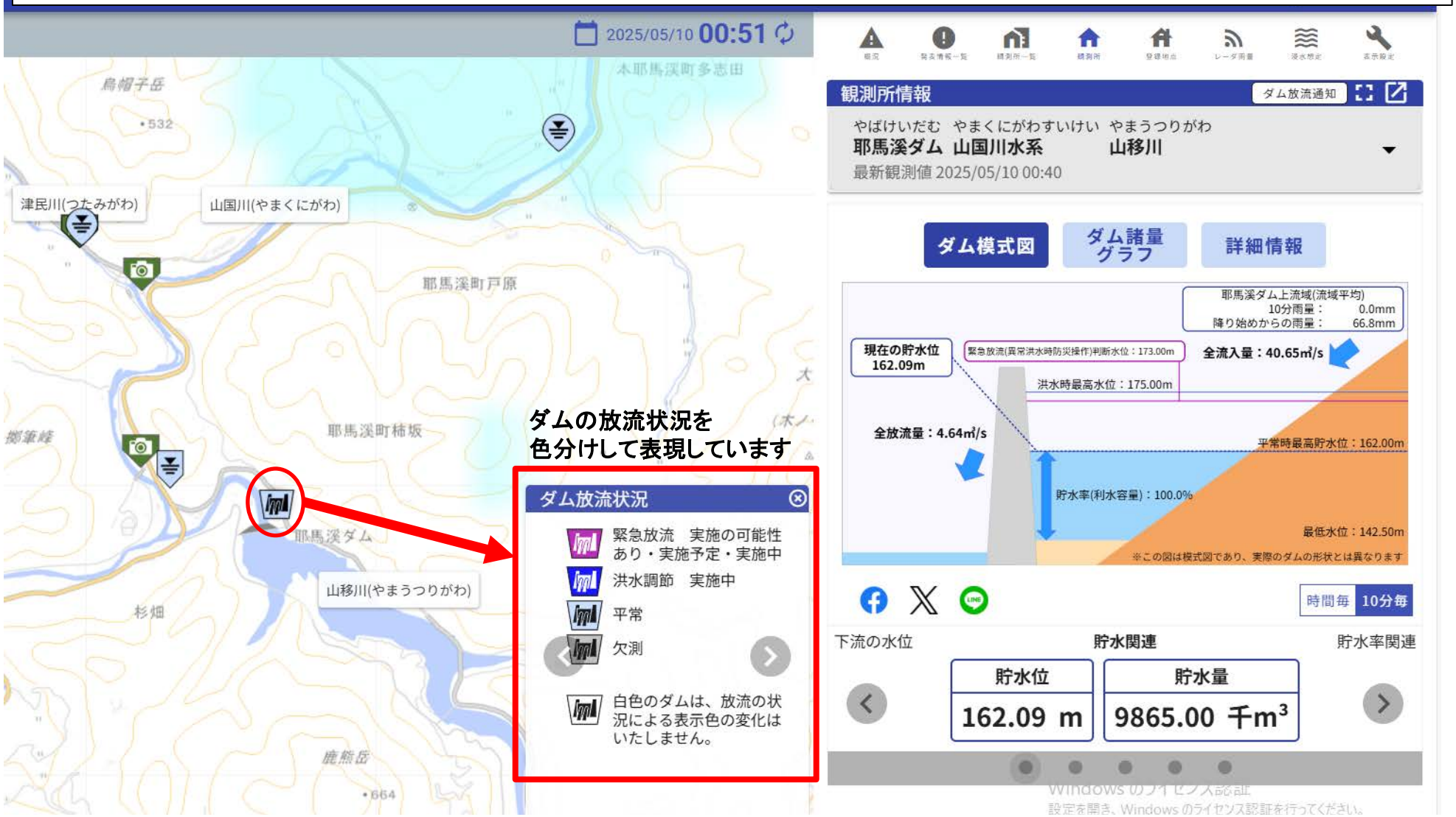
尚、洪水調節時以外では「通常時」画面が表示されています。

川の防災情報

国土交通省

○「川の防災情報」は、大雨などの際に、雨や川の水位の状況などを、インターネットを通じてリアルタイムに配信し、避難判断等に必要な情報を入手できるウエブサイトです。

「川の防災情報」URL　　https://www.river.go.jp/



①緊急放流実施時の状況

○緊急放流は、計画規模を超える洪水時に実施

○九州でも計画規模を超える洪水により、甚大な被害が発生
また、九州の管理ダムにおいても、「緊急放流」を実施している状況

○山国川は、緊急放流前に避難しなければならないことがありうる
→緊急放流実施という状況になった場合では避難が難しいことが考えられる

②命を守る行動につなげるためには

○耶馬渓ダム、山国川の特徴を理解する

○避難するための情報について
　情報の種類（自治体からやマスコミの情報など）
　情報入手の手段としてわかりやすいものは何か
　現在はどういう情報を出しているか
　避難に繋がるためのわかりやすい情報は何か．．．

○避難行動について

いかにして情報を共有し、避難行動に移せるか、意見交換をお願いします